

第38回

リハ工学 カンファレンス in 東海 出会いが生む **ミライ**

プログラム集



2024年8月23日(金) - 25日(日)

日本福祉大学 東海キャンパス

主催

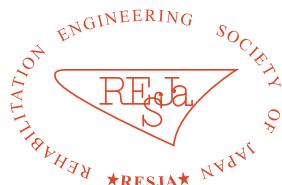
一般社団法人 日本リハビリテーション工学協会

大会長

渡辺 崇史 (日本福祉大学 健康科学部)

実行委員長

長束 晶夫 (なごや福祉用具プラザ)



<https://www.resja.or.jp/conf-38>

事務局: なごや福祉用具プラザ内 第38回リハ工学カンファレンスin東海実行委員会
〒466-0015 名古屋市昭和区御器所通3丁目12-1 御器所ステーションビル3階
TEL: 052-851-0051 FAX: 052-851-0056 E-mail: conf-38@resja.or.jp

目次

ごあいさつ	2
タイムテーブル	
1日目 23日	3
2日目 24日	4
3日目 25日	5
会場アクセス案内	6
フロアマップ	7
演題プログラム	
1日目 23日	8
2日目 24日	10
3日目 25日	13
大会長企画	14
市民公開講座	15
演題概要	
1日目 23日	17
2日目 24日	22
3日目 25日	33
後援・協賛団体	36
企業展示	37
広告	38

ごあいさつ



第 38 回リハ工学カンファレンス in 東海 大会長
渡辺 崇史

リハ工学カンファレンスは、障害のある方の生活や活動を支援する機器やテクノロジーについて、工学・医療・福祉・教育・行政、支援機器ユーザー等のさまざまな分野の人々が集まり、お互いに理解できる言葉で納得できるまで討論することを目的として、1986 年第 1 回リハ工学カンファレンス(神戸市)以降、毎年 1 回開催されています。中部地方では第 3 回(1988 年富山市)、第 13 回(1998 年大垣市)、第 14 回(1999 年金沢市)、第 22 回(2007 年名古屋市)を実施し、今回は 5 回目 17 年ぶりの開催となります。

ところで日本では、障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法(2022 年)、改正障害者差別解消法(2024 年)の施行を背景として、支援技術やリハビリテーション工学の重要性は増えています。そのため、リハ工学カンファレンスのような継続的かつ、定期的に情報交換の場を持つことが必要不可欠あると考えています。

「第 38 回リハ工学カンファレンス in 東海」のテーマは、「出会いが生むミライ ～人とテクノロジーが紡ぐみんなのくらし～」です。人と人、人とテクノロジーの出会いが生み出す新たな可能性について皆さまとの対話を通じて共有したいと思います。

なお、リハ工学カンファレンスはリラックスした雰囲気での討論することを大切にしています。「ノーネクタイ、ノーセンセイ」で、どうぞ気軽な服装でご参加ください。



第 38 回リハ工学カンファレンス in 東海 実行委員長
長束 晶夫

第 38 回リハ工学カンファレンス in 東海にご参加いただきありがとうございます。リハビリテーション工学との出会いは学生時代に遡ります。普段何気なく使っているテクノロジーが、使い方やアイデア次第でこんなにも人の生活や気持ちを変える可能性があるのだと知り、こんな世界があるのだと驚きを感じました。そこから当事者、支援者、エンジニアなどの沢山の方々と出会い、多少の紆余曲折はありましたが、この出会いと繋がりがなければ、間違いなくリハビリテーション工学に携わる今の私はいないと思っています。本カンファレンスのテーマ「出会いが生むミライ ～人とテクノロジーが紡ぐみんなのくらし～」は、出会いから学び、発展してきたリハ工学の原点と願いが込められています。今回は全国から発表 86 題、基礎講座、SIG、委員会、企業展示、市民公開講座と参加者が集い、出会う多数の企画を用意しました。カンファレンスへのご参加心よりお待ちしております。みなさまのより良いミライのきっかけになることを願っています。

第38回リハ工学カンファレンスin東海				8月23日（金曜日）		1 日目		
		1F	3F	3F	3F	3F	3F	
		生協食堂ホール	第 1 室 S301	第 2 室 S302	第 3 室 S303	第 4 室 S305	S廊下	
			1 2 0 名	1 2 0 名	1 2 0 名	5 0 名		
11	30	受付						
	45							
12	0							
	15	ファーストタイムーズ セッション						
	30	開会式						
	45							
13	0	受付 企業展示	GS6: ユーザー観察評価と 開発 13:00-14:15 (75分) 座長：中村詩子（横浜市総合リハ ビリテーションセンター）	OS1: デジタルファブリケー ション 13:00-14:30 (90分) オーガナイザー：松田健太（神奈川 県総合リハビリテーションセンター ）	GS7: 外出行動/アクセシブ ルトランスポーテーシ ョン 13:00-14:15 (75分) 座長：片石任(株式会社フロンティ ア)	リハ工学基礎講座 教育 13:00-13:50 藤田ひとみ（日本福祉大学）	福祉機器 コンテス ト会場	
	15							
14	30							
	45							
	0							
15	15							
	30	GS8: 自立支援 14:30-15:45 (75分) 座長：上野忠浩（横浜市総合リハ ビリテーションセンター）		GS9: 車いす/姿勢保持 14:30-15:45 (75分) 座長：小林博光（総合せき損センタ ー）	リハ工学基礎講座 作業療法 14:00-14:50 小林大作（（株）アシテック・オ コ）			
	45							
	0							
16	15							
	30							
	45							
	0	アフターセッション 16:00-16:45 (45分)		アフターセッション 16:00-16:45 (45分)	リハ工学基礎講座 エンジニア 16:00-16:50 辻村和見（神奈川県総合リハビリ テーションセンター）			

福祉機器
コンテス
ト会場

OS: オーガナイズドセッション、GS: 一般セッション
 ※リハ工学カンファレンスはノースーツです。普段着でお越しください。
 ※リハ工学基礎講座のみを受講希望の場合は、リハ工学基礎講座の参加申込が必要です。詳しくは本カンファレンスホームページ
 をご参照ください。

第38回リハ工学カンファレンスin東海									8月24日（土曜日）		2日目	
	1F	3F	3F	3F	3F	3F	3F	4F	4F			
	生協食堂ホール	第 1 室 S301 1 2 0 名	第 2 室 S302 1 2 0 名	第 3 室 S303 1 2 0 名	第 5 室 C306 5 0 名	第 6 室 C307 5 0 名		C401	C402			
8	受付											
9	受付 企業展示	GS10: インクルーシブ教育・ 教育支援 9:00-10:15(75分) 座長：高原光恵(鳴門教育大学)	OS2: 海外協力・協同・支援 9:00-10:40(100分) オーガナイザー：佐野光彦（神戸学 院大学）	GS11: 支援技術のための調査 ／解析 9:00-10:15(75分) 座長：石濱裕規（医療法人社団永 生会）	(インタラクティブセッ ション・設営準備時間帯)	SIGセッション「自 助具SIG」 9:00-10:15(75分)						
10					9:30-10:30							
11		GS12: スポーツアクティビテ ィ 10:40-11:40(60分) 座長：鈴木光久（名古屋市総合リハ ビリテーションセンター）		GS13: ケースシリーズ 10:40-11:25(45分) 座長：佐藤 晃（名古屋市総合リ ハビリテーションセンター）	インタラクティブセッ ション・展示時間帯 10:30-							
12			総会 11:40-12:40									
昼休み 12:40-13:10												
13	委員会セッション「 災害対策委員会」 13:10-14:25(75分)		OS3: 介護ロボット 13:10-14:40(90分) オーガナイザー：富板 充（名古屋 市総合リハビリテーション事業団）		IS18: インタラクティブセッ ション：登録者発表 13:10-14:10(60分) 座長：小島みさお（東京都健康長 寿医療センター研究所）	SIGセッション「移 乗SIG」 13:10-14:25(75分)	福祉機器コ ンテスト会 場					
14				インタラクティブセッ ション・展示時間帯 - 16:00								
15	SIGセッション「車い すSIG」 14:40-15:55(75分)	GS14: 生活空間デザイン 14:40-15:55(75分) 座長：金井謙介(神戸学院大学)	OS4: スポーツ 15:00-16:40(100分) オーガナイザー：大河原裕貴（名古屋 市障害者スポーツセンター）	GS15: 小児へのアプローチ 14:40-15:55(75分) 座長：親山有希子（訪問看護ステ ーションレガート）								
16	受付 企業展示 協会展示	アフターセッション 16:10-16:55(45分)		アフターセッション 16:10-16:55(45分)	(インタラクティブセッ ション：展示撤収時間帯) 16:00-17:00							
17	支部ミーティング 17:05-17:50	OS:オーガナイズドセッション、GS:一般セッション ※リハ工学カンファレンスはノースーツです。普段着でお越しください。										
18	懇親会											
19												

第38回リハ工学カンファレンスin東海 8月25日（日曜日） 3日目							
		1F	2F	3F	3F	3F	4F
		生協食堂ホール	C202	第1室 S301	第2室 S302	第3室 S303	(名鉄大田川駅) サテライト会場 大田川駅前大屋根広場
			300名	120名	120名	120名	
8	30 45	受付					
9	0	受付 企業展示		OS5: ユーザー 9:00-10:35(95分) オーガナイザー: 石田長武(わだちコンピューターハウス)	GS16: コミュニケーション/ 入力支援 9:00-10:35(95分)(アフターセッション含む) 座長: 寺師良輝(総合せき損センター)	GS17: 支援機器開発 9:00-10:35(95分)(アフターセッション含む) 座長: 難波邦治(吉備高原医療リハビリテーションセンター)	福祉機器コンテスト会場
	15						
	30						
10	45						ウェルキャブ等展示 C-Walk体験試乗 (協力: トヨタ自動車(株)) 10:00-16:00
	0						
	15						
11	30	受付	大会長企画セッション トークセッション: 「人とテクノロジーが紡ぐみんなの暮らし」 10:50-12:30 話題提供者: 上村数洋(バーチャルメディア工房ぎふ)、北野義明(石川県リハビリテーションセンター) モデレーター: 渡辺崇史(日本福祉大学)				パラブレイキン披露 11:00-11:20 12:30-12:50 (協力: ダンsteamBlack Shadow Dancers)
	45						
	0						
12	15			昼休み 12:30-13:30			
	30						
	45						
13	0		受付(市民公開講座)				
	15						
	30						
14	45		市民公開講座 テーマ: 未来のモビリティを語ろう 13:30-15:00 パネリスト: 木全 厚(トヨタ自動車(株))、玉木幸徳(一社)兵庫県相談支援ネットワーク)、橋本 有希子(豊田市) コーディネーター: 渡辺崇史(日本福祉大学)	OS:オーガナイズドセッション、GS:一般セッション ※市民公開講座に参加ご希望のカンファレンス参加者は、後日開設される市民講座参加申し込み先へお申し込みが別途必要です。 ※リハ工学カンファレンスはノースーツです。普段着でお越しください			
	0						
	15						
15	30		閉会式 15:00-15:30				
	45						
	0						

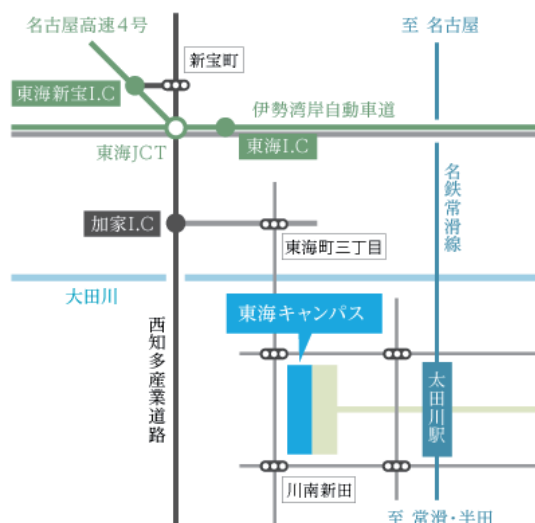
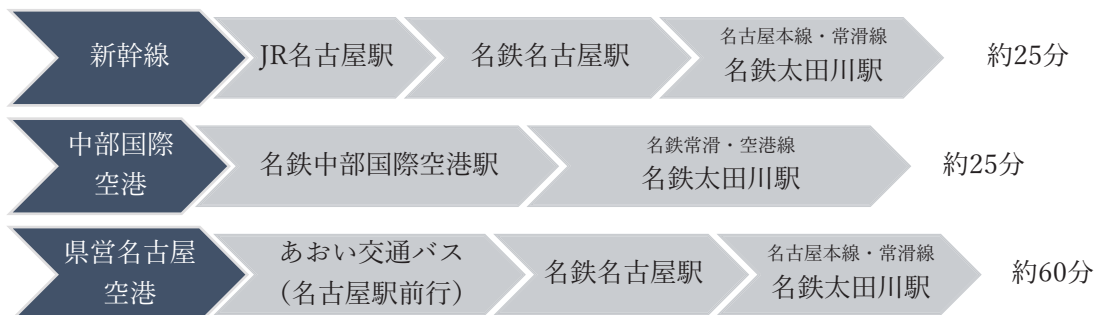
会場アクセス案内

日本福祉大学 東海キャンパス

〒477-0031 愛知県東海市大田町下浜田 1071 番地

名鉄名古屋本線・常滑線 太田川駅（南改札西出口）より西へ徒歩 5 分

太田川駅までのアクセス例



東海キャンパス



詳細は日本福祉大学 HP へ

来場される方は公共交通機関をご利用ください。

駐車場は原則ご利用になれません。やむを得ず、自家用車で来られる場合は事前にお申し出ください（学会事務局メールアドレス：conf-38@resja.or.jp）

名鉄太田川駅のバリアフリー状況



詳細は名鉄太田川駅 HP へ

フロアマップ



第38回リハ工学カンファレンスin東海 演題プログラム

1日目 8月23日（金曜日）

● 第1室（S301室）		
GS6：ユーザー観察評価と開発 8月23日（金） 13:00-14:15		座長：中村詩子（横浜市総合リハビリテーションセンター）
GS06-1	車椅子用ユニバーサルアタッチメントの開発	渡辺崇史（日本福祉大学） 久保田悠揮（未来工業株式会社） 川村裕一（未来工業株式会社） 丸尾亮博（未来工業株式会社） 堀信夫（未来工業株式会社）
GS06-2	体をゆだねてリラックスできる環境での具体的変化と問題	村上潤（NPO法人ポップンクラブ） 阪上雅昭（京都大学） 高田勇（金沢大学附属病院） 宮本一巧（りつりん病院）
GS06-3	座位姿勢計測装置を用いた車椅子での日常活動の評価	難波邦治（吉備高原医療リハビリテーションセンター） 志智直人（吉備高原医療リハビリテーションセンター） 六名泰彦（吉備高原医療リハビリテーションセンター） 谷本義雄（吉備高原医療リハビリテーションセンター） 山本秀樹（吉備高原医療リハビリテーションセンター） 難波孝礼（吉備高原医療リハビリテーションセンター） 古澤一成（吉備高原医療リハビリテーションセンター）
GS06-4	長期療養病棟におけるモニターアームの改良	加藤佳子（長良医療センター） 加登山未帆（長良医療センター） 船戸道徳（長良医療センター）
GS06-5	強化段ボールを使った避難所の環境整備—能登半島地震の被災地支援活動—	繁成剛（長野大学）
GS8：自立支援 8月23日（金） 14:30-15:45		座長：上野忠浩（横浜市総合リハビリテーションセンター）
GS08-1	高齢者の坂道歩行の負担計測	小坂菜生（兵庫県立福祉のまちづくり研究所） 中村俊哉（兵庫県立福祉のまちづくり研究所） 陳隆明（兵庫県立福祉のまちづくり研究所）
GS08-2	訪問系マッチングサービス『ふくはび愛知』の必要性	松元拓也（ふくはび愛知） 林幸太郎（ふくはび愛知）
GS08-3	エンジニアが医療法人グループの一員として補装具を提供する事業活動についての紹介	松田薫（株式会社Arangeチェアラボ金沢）
GS08-4	テレビが聞けるラジオに関する代替手段の紹介	田中芳則（名古屋市総合リハビリテーション事業団なごや福祉用具プラザ）
GS08-5	書字や食事を補助する自助具の紹介	一木愛子（神奈川リハビリテーション病院） 松田健太（神奈川リハビリテーション病院）
● 第2室（S302室）		
OS1：デジタルファブリケーション 8月23日（金） 13:00-14:30		オーガナイザー：松田健太（神奈川県総合リハビリテーションセンター）
OS01-1	脳卒中患者の急性期リハに用いる3Dプリント自助具の開発	長谷川朝哉（国立障害者リハビリテーションセンター研究所） 手嶋吉法（千葉工業大学） 賀屋敷大輔（佐々総合病院） 硯川潤（国立障害者リハビリテーションセンター研究所）
OS01-2	作業療法介入におけるODSを用いた相互交流型自助具作成支援の可能性	田染佐夏（印西総合病院）
OS03-3	可動域制限のある重度熱傷患者に対する自助具等の工夫	松田健太（神奈川県総合リハビリテーションセンター） 一木愛子（神奈川県総合リハビリテーションセンター） 吉澤拓也（地域リハビリテーション支援センター）
OS04-4	機械学習ソリューションMediaPipeを利用した下顎トラッキングによるポインティングデバイスの開発（第2報）	小林博光（総合せき損センター） 寺師良輝（総合せき損センター） 林哲生（福島県立医科大学）

● 第3室 (S303室)

GS7：外出行動/アクセシブルトランスポーテーション

座長：片石任(株式会社フロンティア)

8月23日(金) 13:00-14:15

GS07-1	車椅子種別が福祉車両利用時のシートベルト固定に及ぼす影響	石濱裕規(医療法人社団永生会) 白銀暁(国立障害者リハビリテーションセンター研究所) 外山滋(国立障害者リハビリテーションセンター研究所)
GS07-2	「電動車椅子版 なび坂」の開発と評価	中村俊哉(兵庫県立福祉のまちづくり研究所) 小坂葉生(兵庫県立福祉のまちづくり研究所) 陳隆明(兵庫県立福祉のまちづくり研究所)
GS07-3	多様な路面を呈する京都の史跡における電動車いすの快適性	赤松智子(佛教大学) 吉田彩子(佛教大学)
GS07-4	高位頸髄損傷者の沖縄旅行記	土田浩敬(特定非営利活動法人ぼしぶる) 森内涼子(特定非営利活動法人ぼしぶる) 伊藤靖幸(特定非営利活動法人ぼしぶる)
GS07-5	LED式自動車前照灯の照射特性が及ぼす視野情報への影響	仮屋孝二(第一工科大学)

GS9：車いす/姿勢保持

座長：小林博光(総合せき損センター)

8月23日(金) 14:30-15:45 第3室

GS09-1	キャスパーアブローチを用いた重症心身障害児の意思決定支援	彦田純子(ベストサポート株式会社)
GS09-2	車椅子に装着可能な電動ブレーキの製作	志智直人(吉備高原医療リハビリテーションセンター) 六名泰彦(吉備高原医療リハビリテーションセンター) 難波邦治(吉備高原医療リハビリテーションセンター) 谷本義雄(吉備高原医療リハビリテーションセンター) 山本秀樹(吉備高原医療リハビリテーションセンター) 古澤一成(吉備高原医療リハビリテーションセンター)
GS09-3	脳卒中左片麻痺者向けの車いすブレーキ・フットサポート操作への声かけ代償機器の即時効果	富樫翼(農協共済中伊豆リハビリテーションセンター) 出口弦舞(国際医療福祉大学大学院)
GS09-4	日常の多様なニーズに応える座位保持装置～床に置いてもフレームに載せても車載用としても使える～	新元潔(株式会社アシスト)
GS09-5	在宅で生活しているデュシェンヌ型筋ジストロフィー患者に対する車椅子シーティング	弓岡美咲(国立病院機構長良医療センター) 加藤佳子(国立病院機構長良医療センター) 松戸道徳(国立病院機構長良医療センター)

2日目 8月24日（土曜日）

● 第1室 (S301室)	
GS10：インクルーシブ教育・教育支援 8月24日（土） 9:00-10:15 座長：高原光恵（鳴門教育大学）	
GS10-1	インクルーシブデザインで作製された実験室流し台使用時の3次元動作解析 尾上弘基（東京大学先端科学技術研究センター） 並木重宏（東京大学先端科学技術研究センター）
GS10-2	イタリアのインクルーシブ教育における排泄環境～特別支援学校・通常学校内トイレの事例報告～ 植田瑞昌（日本女子大学） 菅原麻衣子（東洋大学） 是枝喜代治（東洋大学） 石橋裕（東京都立大学大学院） 沖原花音（東洋大学大学院）
GS10-3	障害児にも配慮した誰もが学ばしめる「動物を介した社会教育施設」の研究 第2報～動物園関係者からみた障害児・者への配慮等に関する課題と要望～ 植田瑞昌（前_国立障害者リハビリテーションセンター研究所） 小野栄一（国立障害者リハビリテーションセンター研究所） 東祐二（国立障害者リハビリテーションセンター研究所） 齋藤崇志（国立障害者リハビリテーションセンター研究所） 小田島朋（国立障害者リハビリテーションセンター研究所） 西田紫郎（国立障害者リハビリテーションセンター） 菅野博也（前_国立障害者リハビリテーションセンター）
GS10-4	障害児にも配慮した誰もが学ばしめる「動物を介した社会教育施設」の研究 第3報～動物園へのアンケート調査結果から～ 植田瑞昌（前_国立障害者リハビリテーションセンター研究所） 小野栄一（国立障害者リハビリテーションセンター研究所） 東祐二（国立障害者リハビリテーションセンター研究所） 齋藤崇志（国立障害者リハビリテーションセンター研究所） 小田島朋（国立障害者リハビリテーションセンター研究所） 西田紫郎（国立障害者リハビリテーションセンター） 菅野博也（前_国立障害者リハビリテーションセンター）
GS10-5	一人一台端末導入後の学習環境の変化について 林昌弘（愛知県立小牧特別支援学校）
GS12：スポーツアクティビティ 8月24日（土） 10:40-11:40 座長：鈴木光久（名古屋市長総合リハビリテーションセンター）	
GS12-1	新しい体育と文化芸術の融合“パラブレイキング”の取り組み 松田靖史（川村義肢株式会社） 高橋俊二（一社）日本アダプテッドブレイキング協会） 金城七奈（大阪府立障がい者交流促進センター（ファインプラザ大阪）） 七田幸子（大阪市舞洲障がい者スポーツセンター（アミティ舞洲）） 柿谷早紀（大阪市舞洲障がい者スポーツセンター（アミティ舞洲）） 植田里美（大阪市長居障がい者スポーツセンター）
GS12-2	VR型チェアスキーシミュレータのための機体の提案と試作 小枝瞭介（金沢工業大学大学院） 田村善伸（金沢工業大学大学院） 杉本康弘（金沢工業大学大学院） 鈴木亮一（金沢工業大学大学院）
GS12-3	VR型チェアスキーシミュレータの臨場感向上についての考察 田村善伸（金沢工業大学大学院） 小枝瞭介（金沢工業大学大学院） 鈴木亮一（金沢工業大学大学院）
GS12-4	チェアスキー滑走中の3次元動作分析 ―健常者と脊損者の比較― 玉垣努（神奈川県立保健福祉大学）
GS14：生活空間デザイン 8月24日（土） 14:40-15:55 座長：金井謙介（神戸学院大学）	
GS14-1	頭髄損傷者の至適温湿度範囲に関する研究－中間期、且つ相対湿度40%での至適温湿度範囲について－ 三上功生（国立障害者リハビリテーションセンター研究所）
GS14-2	家族みんなの暮らしに伴走する二世帯住宅への増築リフォーム－状況の変化に幅広く対応できる余白を持たせた住まい－ 天米穂（株式会社神崎工務店）
GS14-3	在宅生活における内部障害者の評価と住宅改造 佐藤晃（名古屋市長総合リハビリテーションセンター） 松井和夫（名古屋市長総合リハビリテーションセンター） 下田誠（名古屋市長総合リハビリテーションセンター）
GS14-4	人工呼吸器を使用している医療的ケア児の住環境に関する研究 その1－保護者が抱える住生活上のストレスの実態と満足度－ 西村顕（横浜市総合リハビリテーションセンター） 大泉江里（SMA家族の会） 松田雄二（東京大学大学院） 神門侑子（東京大学大学院） 西村亮平（東京大学大学院） 山田海音（東京大学大学院）
GS14-5	人工呼吸器を使用している医療的ケア児の住環境に関する研究 その2－医療的ケアに必要な物品量の実態－ 大泉江里（SMA家族の会） 西村顕（横浜市総合リハビリテーションセンター） 松田雄二（東京大学大学院） 神門侑子（東京大学大学院） 西村亮平（東京大学大学院） 山田海音（東京大学大学院）

<p>● 第2室 (S302室)</p>	
<p>OS2：海外協力・協同・支援 8月24日（土） 9:00-10:40</p> <p>オーガナイザー：佐野光彦（神戸学院大学）</p>	
OS02-1	<p>発展途上国の障がい者支援：バングラデシュを中心として</p> <p>佐野光彦（神戸学院大学） 渡辺崇史（日本福祉大学） 大庭潤平（神戸学院大学） 九十九綾子（神戸学院大学） 藤田裕一（神戸学院大学） 坂本真司（大手前大学） 前嶋元（東京立正短期大学） Mehedi Hasan Khan（神戸学院大学） 植村仁（神戸学院大学） 中西久雄（神戸学院大学）</p>
OS02-2	<p>ウズベキスタンで車いすとシーティングを考えた</p> <p>片石任（株式会社フロンティア）</p>
OS02-3	<p>車椅子使用者の円滑な航空機利用にむけての勉強会から見てきたこと</p> <p>剣持悟（川村義肢株式会社） 宮野秀樹（全国頭頸損傷者連絡会） 半田隆志（埼玉県産業技術総合センター）</p>
OS02-4	<p>バングラデシュの視覚障がい者教育とデジタル教科書</p> <p>植村仁（神戸学院大学） 佐野光彦（神戸学院大学） 渡辺崇史（日本福祉大学） 大庭潤平（神戸学院大学） 九十九綾子（神戸学院大学） 藤田裕一（神戸学院大学） 坂本真司（大手前大学） 前嶋元（東京立正短期大学） Mehedi Hasan Khan（神戸学院大学） 中西久雄（神戸学院大学）</p>
OS02-5	<p>Assistive Technology Service Delivery Guidelines: A Rapid Review</p> <p>Mehedi Hasan Khan（神戸学院大学） 佐野光彦（神戸学院大学） 渡辺崇史（日本福祉大学） 大庭潤平（神戸学院大学） 九十九綾子（神戸学院大学） 坂本真司（大手前大学） 前嶋元（東京立正短期大学） 藤田裕一（神戸学院大学） 中西久雄（神戸学院大学） 植村仁（神戸学院大学）</p>
<p>OS3：介護ロボット 8月24日（土） 13:10-14:40</p> <p>オーガナイザー：富板 充（名古屋市総合リハビリテーション事業団）</p>	
OS03-1	<p>デスクトップロボットを用いた食事支援システムの試作</p> <p>垣本映（職業能力開発総合大学校） 隅田敦也（職業能力開発総合大学校） 新家寿健（職業能力開発総合大学校） 池田知純（職業能力開発総合大学校） 松野史幸（（株）コーヤシステムデザイン）</p>
OS03-2	<p>介護ロボット導入支援スキームを用いた障害者就労支援におけるSEM Gloveの活用と効果</p> <p>富板充（名古屋市総合リハビリテーション事業団なごや福祉用具ブラザ） 加藤朗（名古屋市総合リハビリテーションセンター） 三宅充緒（株式会社エスケーエレクトロニクス）</p>
OS03-3	<p>名古屋市介護ロボット導入効果検証事例報告</p> <p>長尾美幸（名古屋市総合リハビリテーション事業団なごや福祉用具ブラザ） 長束晶夫（名古屋市総合リハビリテーション事業団なごや福祉用具ブラザ） 富板充（名古屋市総合リハビリテーション事業団なごや福祉用具ブラザ）</p>
OS03-4	<p>名古屋市介護ロボット等活用推進事業の報告</p> <p>長束晶夫（名古屋市総合リハビリテーション事業団なごや福祉用具ブラザ） 富板充（名古屋市総合リハビリテーション事業団なごや福祉用具ブラザ） 長尾美幸（名古屋市総合リハビリテーション事業団なごや福祉用具ブラザ）</p>
<p>OS4：スポーツ 8月24日（土） 15:00-16:40</p> <p>オーガナイザー：大河原裕貴（名古屋市障害者スポーツセンター）</p>	
OS04-1	<p>車いすユーザーのセルフトレーニング 脊髄損傷者専門トレーニングジムJ-Workoutの取組</p> <p>伊佐拓哲（ジェイ・ワークアウト株式会社）</p>
OS04-2	<p>日常的に使用している車椅子に容易に着脱可能な車椅子サッカー用フットガード「ファンガード」の開発</p> <p>中村詩子（横浜市総合リハビリテーションセンター） 渡辺弘卓（矢崎化工株式会社）</p>
OS04-3	<p>車椅子ソフトボール用競技車の製作報告</p> <p>酒井靖史（東名ブレース株式会社） 宇野秋人（東名ブレース株式会社） 奥村庄次（東名ブレース株式会社）</p>
OS04-4	<p>パラサイクリングにおける自転車の改造</p> <p>荒賀博志（（一社）日本パラサイクリング連盟）</p>
OS04-5	<p>上肢障害者のアーチェリーにおける行射方法について</p> <p>大河原裕貴（名古屋市障害者スポーツセンター） 秋田直洋（名古屋大学医学部附属病院） 石川舞（埼玉県アーチェリー協会） 加藤真弓（愛知医療学院大学）</p>

● 第3室 (S303室)	
GS11：支援技術のための調査／解析 8月24日（土） 9:00-10:15 座長：石濱裕規（医療法人社団永生会）	
GS11-1	OpenFaceによる車椅子座位姿勢の解析 阪上雅昭（京都大学大学院） 宮本一巧（地域医療機能推進機構りつりん病院）
GS11-2	座位環境の違いが健康成人における上肢課題中の筋活動に及ぼす影響 高田勇（沢大学附属病院） 久保田雅史（金沢大学） 吉田信也（金沢大学） 櫻井吾（金沢大学） 八幡徹太郎（金沢大学） 阪上雅昭（京都大学大学院） 宮本一巧（地域医療機能推進機構りつりん病院） 村上潤（NPO法人ポップンクラブ）
GS11-3	車いすの設計支援を目指した身体3Dワイヤーフレームモデルの開発 塚田敦史（名城大学） 西村重男（元 北海道立心身障害者総合相談所） 八田達夫（元 日本医療大学） 藤田ひとみ（日本福祉大学）
GS11-4	支援機器開発における医療専門職の関与実態—支援機器開発企業へのアンケート調査— 澤田有希（帝京科学大学） 硯川潤（国立障害者リハビリテーションセンター）
GS11-5	障害者自立支援機器における新たな開発領域の開拓に向けた調査 城岡秀彦（株式会社日本総合研究所）
GS13：ケースシリーズ 8月24日（土） 10:40-11:25 座長：佐藤 晃（名古屋市長総合リハビリテーションセンター）	
GS13-1	側方移乗時の股関節外転・外旋運動が制御できず移乗自立困難であったが、熱可塑性ギブス包帯で作成したアーチ型の用具を使用することで側方移乗が自立した胸髄損傷例 野田笑美（花はたりリハビリテーション病院） 富田藍（花はたりリハビリテーション病院） 木幡美季（花はたりリハビリテーション病院） 居山圭介（花はたりリハビリテーション病院） 廣島拓也（花はたりリハビリテーション病院）
GS13-2	動作能力に合わせ短下肢装具を調整したことで立位姿勢が改善した不全胸髄損傷例 木幡美季（花はたりリハビリテーション病院） 富田藍（花はたりリハビリテーション病院） 居山圭介（花はたりリハビリテーション病院） 野田笑美（花はたりリハビリテーション病院） 廣島拓也（花はたりリハビリテーション病院）
GS13-3	精神障害者の住環境整備の症例 下田誠（名古屋市長総合リハビリテーションセンター） 佐藤晃（名古屋市長総合リハビリテーションセンター） 向田悦子（名古屋市長総合リハビリテーションセンター附属病院）
GS15：小児へのアプローチ 8月24日（土） 14:40-15:55 座長：初山有希子（訪問看護ステーションレガート）	
GS15-1	新生児から活用できる姿勢保持椅子 西山慎一郎（株式会社アシスト） 正垣明（尼崎総合医療センター）
GS15-2	リラックスするからこそアクティブになれるという現象の言語化 向坂愛理（株式会社Simpray） 村上潤（NPO法人POPNCULUB）
GS15-3	肢体不自由児の電動移動機器導入における記録と分析 藤田ひとみ（日本福祉大学）
GS15-4	0歳からの姿勢保持 具体的なケース紹介 村上潤（NPO法人ポップンクラブ） 阪上雅昭（京都大学） 高田勇（金沢大学附属病院） 宮本一巧（地域医療機構りつりん病院）
GS15-5	椅子の形状による肢体不自由児の座位姿勢の変化 大久保雅弘（株式会社アシスト）
● 第5室 (S306室)	
IS18：インタラクティブセッション（発表） 8月24日（土） 13:10-14:10 座長：小島みさお（東京都健康長寿医療センター研究所）	
IS18-1	障害の程度が異なる3名の脳性麻痺者による同じ支援装置を共有しギター演奏練習をする試み 伊藤克久（C-POWERグループ クリバラボ） 西ノ平志子（三重大学大学院工学研究科／佐賀大学理工学） 小木曾広介（C-POWERグループ クリバラボ）
IS18-2	被災者の不安・ストレス軽減を目的としたロボット介在活動の検討—aiboによる介入— 野口裕美（四條畷学園大学） 園龍之介（就労継続支援B型事業所workwork） 北口志穂（めいとう児童デイサービス）
IS18-3	起立動作誘導助ススキルアップ器具の考案 横山哲也（神奈川県総合リハビリテーションセンター） 経塚愛以（神奈川県総合リハビリテーションセンター） 平松優香（神奈川県総合リハビリテーションセンター） 古屋美紀（神奈川県総合リハビリテーションセンター） 松田健太（神奈川県総合リハビリテーションセンター） 浅井直樹（神奈川県総合リハビリテーションセンター）
IS18-4	札幌市の凍結路面におけるガラス繊維配合杖先ゴムの有効性に関する研究 香田潤（株式会社つえくつ）
IS18-5	MR（Mixed Reality）を用いた住環境シミュレーションシステムの試作 江原喜人（総合せき損センター） 出田良輔（総合せき損センター） 有地祐人（総合せき損センター） 榎村正敏（総合せき損センター） 高浪あゆみ（総合せき損センター） 武石誠（株式会社アイプラン） 吉田亮太（株式会社アイプラン） 大塚裕理（株式会社アイプラン）
IS18-6	稲穂型歩行支援機の試作 鈴木光久（名古屋市長総合リハビリテーション事業団） 大塚滋（株式会社今仙技術研究所） 後藤学（株式会社今仙技術研究所） 佐野明人（名古屋工業大学）
IS18-7	光電式入力装置の再開発と機能の追加 伊藤和幸（国立障害者リハビリテーションセンター）

3日目 8月25日（日曜日）

● 第1室（S301室）

OS5：ユーザー

8月25日（日） 9:00-10:35

オーガナイザー：石田長武（わだちコンピューターハウス）

OS05-1	松葉杖使用者が電動車椅子を併用することで見えてきた意義と課題	金井謙介（神戸学院大学総合リハビリテーション学部）
OS05-2	訪問介護における多言語コミュニケーション支援ツールの効果と課題	近藤佑次（愛知県重度障害者の生活をよくする会）
OS05-3	筋ジストロフィー患者にとって大切さと喜び 非侵襲的人工呼吸療法（NPPV）と車いすシーティング（ABS）	足達恵理（筋ジス患者「団結の会」）
OS05-4	名古屋城木造化によってエレベーターが設置されない件	小川直人（AJU 自立の家）

● 第2室（S302室）

GS16：コミュニケーション/入力支援

8月25日（日） 9:00-10:35

座長：寺師良輝（総合せき損センター）

GS16-1	スイッチインターフェースのワイヤレス化について	木澤健司（東京都立水元小含学園）
GS16-2	コンピュータ入力装置のための画像処理技術	六名泰彦（吉備高原医療リハビリテーションセンター） 難波邦治（吉備高原医療リハビリテーションセンター） 志智直人（吉備高原医療リハビリテーションセンター） 谷本義雄（吉備高原医療リハビリテーションセンター） 山本秀樹（吉備高原医療リハビリテーションセンター） 古澤一成（吉備高原医療リハビリテーションセンター）
GS16-3	聴覚障害者のためのRaspberry Piを用いた発言者特定システムの開発	中村伸一（日本福祉大学）
GS16-4	離れた場所において会えない人とのコミュニケーション方法	高橋宜盟（一般社団法人結ライフコミュニケーション研究所）
GS16-5	スイッチブースター導入事例のその後	上野忠浩（横浜市総合リハビリテーションセンター）

● 第3室（S303室）

GS17：支援機器開発

8月25日（日） 9:00-10:35

座長：難波邦治（吉備高原医療リハビリテーションセンター）

GS17-1	シュクレN・シュクレN e x t の導入事例と汎用性について	村上玄（株式会社アシスト）
GS17-2	技術による地域課題解決の取り組み	藤澤義範（長野高専） 古川万寿夫（新居浜高専） 伊藤祥一（長野高専） 中山秀俊（長野高専） 小林裕介（長野高専） 力丸彩奈（長野高専）
GS17-3	炭素繊維強化熱可塑性プラスチックを用いた両側支柱付き短下肢装具製作方法の紹介	早川康之（北海道科学大学）
GS17-4	真空エジェクタを応用した呼吸管理中の患者のための空気供給装置の提案	大恵克俊（日本文理大学） 青井宏樹（日本文理大学） 中茂睦裕（湘南工科大学） 洪沢良太（第一工科大学） 内村俊二（第一工科大学）
GS17-5	AIを利用した対話型アセスメントツール「ATチャットボット」の開発	関裕基（早稲田大学） 巖淵守（早稲田大学） 渡辺崇史（日本福祉大学） 藤井博之（長野大学） 保正友子（（日本福祉大学） 浅石裕司（日本福祉大学）

大会長企画

トークセッション「人とテクノロジーが紡ぐみんなの暮らし」

日時・場所：2024 年 8 月 25 日(日) 10:50-12:30 C202 教室

私たちは、なにげない生活やさまざまな活動の中で「人」と「人」との関係性の大切さに気付かされます。また自分に合った「テクノロジー」に出会い、効果的に利用されることで、自身の生活に見通しを持つことができ、希望が生まれ、それが次への動機付けにつながり、さらに生活の幅が広がることでしょう。

今回は中部支部会員であるお二人に、これまでの経験や生活、現在の活動やテクノロジーに寄せる想いなどを語っていただき、私たちがどのようにテクノロジーを活かしていけばよいのか、対話を通して共に考えたいと思います。

トークテーマ1：「リハ工学に支えられ 40 年」

話題提供者：上村数洋(バーチャルメディア工房ぎふ)

【トーク概要】43 年前、交通事故により頸椎損傷(C-4)四肢完全麻痺となる。転院先の病院で退院を決意した頃、医師より一人のリハ工学のエンジニアを紹介された。そこで初めて呼気圧 SW と電話「ふれあい S」に出会い、生活への微かな糸口を感じた。以後、環境制御装置をはじめ、パソコンの操作が出来る「KB マウスエミュレーター」の開発試用により、単にコミュニケーションの道具としてだけでなく、生きる自信と希望・意欲までも持てるようになり、催しや発表の場への参加の機会も増え、生活を大きく変えてくれました。現在私は、同じ重度の障害者の在宅就労支援の取り組みをしています。様々な恩恵を受けてきた支援技術・リハ工学について紹介すると同時に、気がつく重度障害者から後期高齢者に、そこに待ち構えていた新たな課題とリハ工学への期待、支援技術を支える社会全体としての理解とあり方への思いについてお話しが出来ればと思っています。

トークテーマ2：「能登半島地震での支援活動，そして今思うこと」

話題提供者：北野義明(石川県リハビリテーションセンター)

【トーク概要】能登各地の避難所や金沢の 1.5 次避難所，そして仮設住宅での生活は，従前の生活と大きく異なる環境が問題となっており，リハエンジニアとして，その改善や補助用具の支援に取り組んできた。これらは，動作や活動をイメージして，いかに人と環境とモノを調整し，実現・提供していくかがポイントとなり，テクニカルエイドそのものであった。そして，その対応手段のバリエーションや効果を引き出すのは，対象者や各支援者との関係性によるものが大きいと実感している。

モデレータ：渡辺崇史(日本福祉大学)

第38回

リハ工学カンファレンス in 東海 出会いが生むミライ 市民公開講座



未来のモビリティを語ろう

パネリスト

移動寿命100年プロジェクトが造る、
これからの幸せの量産



トヨタ自動車株式会社 クルマ開発センター
C&A事業部 事業統括室 主査

木全 厚 氏

誰ひとり取り残されないまちづくり
～多様性を再確認する～



一般社団法人兵庫県相談支援ネットワーク 代表理事
NHK Eテレ バリバラのご意見番

玉木 幸則 氏

ミライに向けた豊田市の取組と挑戦
～インクルーシブ・モビリティの視点から～



豊田市 企画政策部
未来都市推進課 副課長

播磨 有希子 氏

コーディネーター



日本福祉大学 健康科学部

渡辺 崇史 氏

2024年8月25日(日) 13:30～15:00

日本福祉大学東海キャンパス2階 C202

東海市大田町下浜田1071番地

参加無料 定員300名 事前申込制QR



同時開催 モビリティ展示

太田川駅前大屋根広場 10:00～16:00

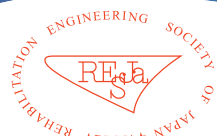
協力:トヨタ自動車株式会社

ウェルキャブやモビリティの体験ができます

パラブレイキン

東海地方初 ダンスチーム Black Shadow Dancersによる
デモンストレーション

文化庁「令和6年度障害者等による文化芸術活動推進事業」



<https://www.resja.or.jp/conf-38>

主催:第38回リハ工学カンファレンスin東海実行委員会 TEL:052-851-0051 E-mail:conf-38@resja.or.jp

未来のモビリティを語ろう

移動のミライ「見いつけたっ」:新しい移動機器・手段が次々と生まれる昨今、移動の課題は山積み。
本講座では最先端で活躍する3名のパネリストが集結。
「誰もが享受できる移動」どんなミライを創ろうか? 皆さんと一緒に語ります。

パネリスト

トヨタ自動車株式会社 クルマ開発センター
C&A事業部 事業統括室 主査

木全 厚 氏

略歴 大学(機械工学)卒業後、トヨタ自動車に入社。故障診断システムの開発、品質保証、販売店担当を経て、現在は架装・カスタマイズ・用品開発事業に従事。新しい視点で新商品やビジネスを創出し、社会課題の解決にも目を向け、利用者の声をもとにした「ものづくり」のため、仲間づくりも推進している。

講演概要 人生100年時代を迎え、「活動」と「参加」が重要性を増しています。「Mobility for All」全ての人に移動の自由と楽しさを。インクルーシブ・モビリティを目指した取り組み、ものづくりに携わる私たちの思いを共有したいと考えています。

豊田市 企画政策部
未来都市推進課 副課長

播磨 有希子 氏

略歴 豊田市役所で総務部や上下水道局などを経て、2023年度から企画政策部未来都市推進課に配属。これまで統計調査、選挙管理、水道事業などに従事。現在、持続可能なまちづくりやSDGs、脱炭素社会の推進、次世代モビリティの活用に取り組んでいる。

講演概要 豊田市は「ミライのフツーをつくろう」を合言葉に、「SDGs未来都市とよた」の実現に向けた先進的な取り組みを進めています。今回は「モビリティ」に焦点を当て、豊田市の取り組みを紹介しつつ、「未来のモビリティ」について考えていきます。

一般社団法人兵庫県相談支援ネットワーク 代表理事
NHK Eテレ バリバラのご意見番

玉木 幸則 氏

略歴 日本福祉大学卒業後、兵庫県相談支援ネットワーク代表理事、西宮市社会福祉協議会アドバイザー、内閣府委員、龍谷大学客員教授、NHK Eテレ「バリバラ」レギュラー出演の社会福祉士。

講演概要 私は「バリバラ」に出演し、障害者だけでなく様々なマイノリティの課題について考える番組を作っています。多様性のある社会づくりが叫ばれていますが、実際には認識されていない人々も多くいます。誰ひとり取り残さないまちづくりを目指したいと考えています。

コーディネーター

日本福祉大学 健康科学部

渡辺 崇史 氏

略歴 電機メーカーで商品設計や技術開発を経て、名古屋市総合リハビリテーション事業団でリハエンジニアとして勤務。現在は、日本福祉大学健康科学部教授。実践的研究者として障害者の福祉用具適合相談や工学的支援、ICTを活用した支援ネットワークの構築や支援機器の開発にも取り組む。博士(工学)。

会場ではパソコンタイクと
手話通訳による情報保障を行います。

モビリティ
展示内容

ウェルキャブ (シエンタ・ショートスロープ、ノア・スロープ、ハイエース車いすリフト等)
小型電動モビリティC+Walk T & C+Walk S乗車体験

申込み方法

QRコードを読み込んで、Peatixでお申込みください。



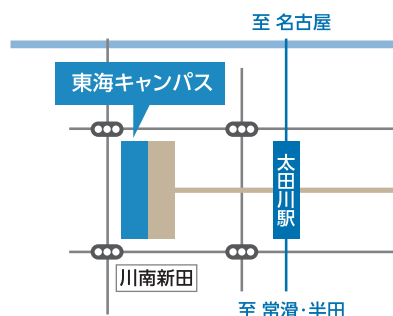
会場アクセス

会場には駐車場はありません。公共交通機関でお越しください。

名鉄太田川駅西出口から西へ徒歩5分

お問合せ先

第38回リハ工学カンファレンスin東海実行委員会
TEL:052-851-0051 E-mail:conf-38@resja.or.jp



GS06 ユーザー観察評価と開発 8月23日(金) 13:00-14:15 第1室(S301室)

GS06-1 車椅子用ユニバーサルアタッチメントの開発

渡辺 崇史(日本福祉大学)

利用目的や自分の好みに合ったカバンや小物入れ、ボトルホルダーなどを、車椅子フレームを加工することなく自分が使いやすい位置や車輪部に簡単に取付け可能とする、ユニバーサルアタッチメントを開発した。傾斜路移動中や座面をティルトした状態でも、同じ位置関係を保ったまま利用することができる。歩行器・歩行車にも取付け利用可能である。今回は試作に至るまでのニーズ調査と仕様決定、モニタリング評価について報告する。

GS06-2 体をゆだねてリラックスできる環境での具体的変化と問題

村上 潤(NPO法人ポップンクラブ)

キャスパー・アプローチ理論を用いて「体を委ねてリラックスできる環境」が整うと、それまで起こらなかった様々な普遍的な変化があることが多くのケースから明らかになった。そのビフォーアフターを動画で紹介し、変化の内容と理由を事実と仮説を交えて報告考察する。ケースは臥位でエアベットの空気を抜くことで本人が持つ形状に合うことで起こる変化と、体を委ねられる座位姿勢での変化。

GS06-3 座位姿勢計測装置を用いた車椅子での日常活動の評価

難波 邦治(吉備高原医療リハビリテーションセンター)

車椅子を使用する脊髄損傷者は、褥瘡予防対策としてプッシュアップなど除圧動作の獲得は重要である。リハビリテーション医療現場では、車椅子座位での除圧動作の指導が行われているが、訓練以外の場面で実際に行えているか確認する必要がある。本研究では、我々が開発した座位姿勢計測装置を用いて、脊髄損傷者の日常の車椅子での活動や座位姿勢の変化、除圧動作などの時間や回数を定量的に計測して分析を行った。

GS06-4 長期療養病棟におけるモニターアームの改良

加藤 佳子(長良医療センター)

当院は筋ジストロフィー患者の長期療養病棟を有しており、患者の多くが人工呼吸器を使用する重度障害である。重度障害患者の変形予防や安楽な姿勢での活動を可能にするためにモニターアームの導入が重要であるが、医療スタッフやケアの妨げにならないよう工夫が必要である。今回、従来品での困難点に加え、現在当院で新たに導入したモニターアームについて報告する。

GS06-5 強化段ボールを使った避難所の環境整備 ー能登半島地震の被災地支援活動ー

繁成 剛(長野大学)

今年の正月に発生した能登半島地震の被災地に2月と3月の2回にわたって支援活動を行なった。活動内容は2011年の東日本大震災から継続している強化ダンボールを使った机、椅子、棚などの家具を避難所に提供することによって、避難生活の環境改善を図ることである。今回は避難所に高齢者が多いため立ち座りのしやすいテーブルと椅子をデザインし、現地で避難者と組み立てるワークショップを開催したので、その内容を報告する。

OS01 デジタルファブリケーション 8月23日(金) 13:00-14:30 第2室(S301室)

OS01-1 脳卒中患者の急性期リハに用いる 3D プリント自助具の開発

長谷川朝哉(国立障害者リハビリテーションセンター研究所)

脳卒中の治療では、急性期から速やかにリハを開始することが重要である。しかし、病室での食事・整容などの ADL は、適切な自助具の早期供給が難しく、動作を健側に依存することが課題であった。そこで本報告では、脳卒中患者の身体特性に合わせた形状調整が可能な自助具形状モデルを設計・評価した。個別調整後の形状データを 3D プリンタで造形することで、適合された自助具を用いた麻痺側での ADL 訓練が入院直後から可能になる。

OS01-2 作業療法介入における ODS を用いた相互交流型自助具作成支援の可能性

田染佐夏(印西総合病院)

当院では回復期病棟、訪問リハ、通所リハなどの領域で作業療法を展開している。生活支援にて 3D プリンターを用いたオーダーメイド自助具を作成することがあるが、オーダーメイド自助具を有効活用するためには当事者と相互交流を介してニーズを形にしていく過程が重要である。そこで、ODS を作業療法介入に取り入れ、シートを用いて自助具作成をしたところこれまでと異なる結果が得られたため報告する。

OS01-3 可動域制限のある重度熱傷患者に対する自助具箸の工夫

松田健太(神奈川県総合リハビリテーションセンター)

対象は全身的に可動域制限がある重度熱傷患者である。可動域制限により通常の箸の長さでは、口元に食物を運ぶことができない。そのため、市販の自助具箸に長さの延長と開閉の補助部品を付加することで、負担の少ない食事動作の獲得を目指した。回転軸に重みをもたせ、ほかは軽量となるように箸の延長にカーボンパイプ、補助部品を 3D プリンタ製とした。それにより適切な重量配分となり、円滑な食事動作が実現した事例を報告する。

OS04-4 機械学習ソリューション MediaPipe を利用した下顎トラッキングによるポインティングデバイスの開発(第2報)

小林博光(総合せき損センター)

高位頸髄損傷者の下顎と脛の動きを検出し、マウスカーソル操作を実現させるため、ワンボードコンピュータと web カメラを利用したポインティングデバイスを開発している。前モデルの課題であった意図した方向や停止が不安定であること等を解決するため、Google の機械学習ソリューション「MediaPipe」を利用し、閾値や判別式など、コードを再度見直し、RaspberryPi4 で実現したので報告する

GS07-1 車椅子種別が福祉車両利用時のシートベルト固定に及ぼす影響

石濱裕規(医療法人社団永生会)

車椅子種別が福祉車両利用時の車椅子利用者に対するシートベルト固定状況に及ぼす影響を検討した。生体モデルを登載した各種車椅子により福祉車両に乗車し固定操作を行った。普通型車椅子ではシートベルトの3点固定が十分になされず、またティルト・リクライニング型車椅子ではシートベルトの固定状態がティルト・リクライニング角度により影響を受けることが示唆された。今後の車椅子簡易固定標準化活動の進展を期待したい。

GS07-2 「電動車椅子版 なび坂」の開発と評価

中村俊哉(兵庫県立福祉のまちづくり研究所)

昨年の本カンファレンスでは、自走用車椅子使用者を対象としたアクセシビリティマップ「なび坂」の発表を行なった。検索した経路上にある坂道に対し、車椅子をこぐ力で通行可能かどうかを色により表示させたものである。今回は「電動車椅子版 なび坂」として、電動車椅子で経路上の坂道が通行できるかを表示させる地図アプリの試作を行った。開発したアプリの詳細とその後行ったモニタ評価について報告する。

GS07-3 多様な路面を呈する京都の史跡における電動車いすの快適性

赤松智子(佛教大学)

車いすを必要とする人が、観光や旅行において自分のペースで走行・移動する場合には、心身の負担が軽減される電動車いすの使用が適していると考えられる。京都の史跡では、砂利敷や凹凸を含む石畳み、坂道や段差などの多様な路面を呈することが多い。また、施設で用意された貸出し車いすは、ハンドリムのない介助用が多く見受けられる。京都の名所旧跡地を電動車いすで走行した際の快適性について報告する。

GS07-4 高位頸髄損傷者の沖縄旅行記

土田浩敬(特定非営利活動法人ぼしぶる)

沖縄の海でマリナクティビティを体験。高位頸髄損傷者で上肢下肢共に麻痺のある私と、頸髄損傷者の仲間と一緒にバナナボートにチャレンジした。現場の環境に合った福祉用具とサポートする人がいることで実現出来た。同じ障害を持つ仲間とマリナクティビティを楽しんだのだが、高位頸髄損傷者で電動車椅子使用者が、航空機を利用して沖縄旅行を計画することも含めて報告する。

GS07-5 LED式自動車前照灯の照射特性が及ぼす視野情報への影響

仮屋孝二(第一工科大学)

近年、高齢者の交通事故が社会問題となっており、視野情報と交通事故の関連性について様々な研究が進められている。本研究では、自動車用前照灯の照射特性を調査分析し、有効視野との関係性を明らかにすることで高齢者や視野障害者の交通事故削減と交通バリアフリーの実現を目指す。今回は、急速に普及しているバルブ型LED式前照灯の照射特性について道路運送車両法の検査基準に基づいて調査分析した。

GS08 自立支援 8月23日(金) 14:30-15:45 第1室(S301室)

GS08-1 高齢者の坂道歩行の負担計測

小坂菜生(兵庫県立福祉のまちづくり研究所)

高齢者の運動習慣の有無は高齢者の歩行に大きな影響を与える。健康維持のために1日6000歩以上の歩行が目標値として掲げられているが、個々の高齢者の歩行特性を考慮した目標値の設定方法は確立されていない。高齢者の歩行特性や地形による負荷の違いを考慮し、適度な運動を促すことで継続的な運動に繋がると考える。そこで今回、坂道や階段が高齢者にとってどれだけ負担であるかを測るための検証を行い、その結果を報告する。

GS08-2 訪問系マッチングサービス『ふくはび愛知』の必要性

松元拓也(株式会社 OLDROOKIE)

ふくはび愛知とは、福祉業界初！訪問福祉サービスを提供する事業所とサービスを受けたい利用者を繋ぐマッチングシステムです。2023年11月にリリースし、愛知県内での利用率100%を目指して活動を進めています。

GS08-3 エンジニアが医療法人グループの一員として補装具を提供する事業活動についての紹介

松田薫(株式会社 Arange チェアラボ金沢)

「人の暮らしを Be happy!に」をテーマにし、在宅医療を起点とした様々な事業活動を行う医療法人社団オレンジ。訪問診療などの医療活動以外にも病気になる前に出会う場所としてのカフェやまちの保健室、医療的ケア児が日中を過ごす場所など特色のある事業がある。チェアラボもその一員として補装具の制作を行っている。今回は姿勢保持装置を作成する事例を通じ医療法人グループの中で補装具を提供していくことの可能性を報告する。

GS08-4 テレビが聞けるラジオに関する代替手段の紹介

田中芳則(名古屋市総合リハビリテーション事業団なごや福祉用具プラザ)

なごや福祉用具プラザでは障害者の日常生活用具給付の問い合わせもあり、そのうち「テレビが聞けるラジオ(以下、ラジオ)」は年に数件の相談を受けている。このラジオは視覚障害者向け専用機で、2019年10月に販売が終了し、現在は入手できないが名古屋市では給付種目として残されている。なお入手を希望される方には代替機等の案内をしている。今回、代替機等を選ぶポイントを紹介し、その情報を利活用していただくために報告する。

GS08-5 書字や食事を補助する自助具の紹介

一木愛子(神奈川県総合リハビリテーションセンター)

臨床場面で食事の食べづらさや疲労感の訴え、字がうまく書けない、ペンをうまく持てないなどの相談を受ける。動作観察すると、道具の握りこみが強いことで、上肢の動きに影響していることが多い。今回道具交換が可能で、筆記具や食具の把持の際に尺側の安定を促し、道具操作を補助する自助具を作製した。導入により動作の改善、獲得に至ったためその自助具について紹介する。発表に際し、本人家族の承諾は得ており利益相反はない。

GS09 車いす/姿勢保持 8月23日(金) 14:30-15:45 第3室(S303室)

GS09-1 キャスパーアプローチを用いた重症心身障害児の意思決定支援

彦田純子(ベストサポート株式会社)

言葉で伝えられない重症児の意思決定支援には、意思を発揮できる環境の整備、豊かな経験、意思決定を育てる取り組み等が必要とされる。意思の表出方法を高める取り組みとして重症児に対しキャスパーアプローチ(NPO 法人ポップンクラブ代表村上潤氏が考案したアプローチ)による姿勢調整・バギー作成を行った。このバギー活用によりバイタル、活動、コミュニケーションに変化が起き、意思の表出方法や表出機会が増えたため報告する。

GS09-2 車椅子に装着可能な電動ブレーキの製作

志智直人(吉備高原医療リハビリテーションセンター)

通常、手動車椅子でスロープを下る際は、車椅子の使用者が手動で速度を制御する必要があり、上肢機能が不十分な場合は安全な制御が困難な場合がある。そこで今回、車椅子に後付けで装着可能な電動ブレーキ装置を製作した。本ブレーキは、ブレーキパッドで駆動輪のリムを挟み込む方式であり、バネを介してモーターでブレーキパッドを駆動することで、ブレーキの ON、OFF、及びブレーキ力の調整を電動で行うことができる。

GS09-3 脳卒中左片麻痺者向けの車いすブレーキ・フットサポート操作への声かけ代償機器の即時効果

富樫翼(農協共済中伊豆リハビリテーションセンター)

【背景】左片麻痺者は注意障害等の影響で車いすブレーキ等の操作(以下:移乗準備操作)を忘れる。そこで移乗準備操作の忘れに対し声掛け代償機器の即時効果を検証した。【方法】左片麻痺者5名で移乗準備操作忘れの項目数を日常と機器使用で比較した。【結果】全症例で機器使用により移乗準備操作の成功項目数が増加した。【考察】車いす機器は事前に操作手順を指示し、応用行動分析学に基づき効果が得られやすかったと考えた。

GS09-4 日常の多様なニーズに応える座位保持装置～床に置いてもフレームに載せても車載用としても使える～

新元潔(株式会社アシスト)

昨今、座位保持装置の評価要求はその目的によって様々である適切な姿勢支持を基本とする身体機能に対する評価に加え上肢機能や移動動作など活動性の向上によって得られる ADL の支援、学習、遊びといった環境やコミュニケーション能力に関する目標獲得など本発表では補装具支給制度を適正に利用した上で利用者の目的に応じた機能提供の実現、多機能な座位保持装置の既製品化開発の試行と実用について紹介させて頂く

GS09-5 在宅で生活しているデュシェンヌ型筋ジストロフィー患者に対する車椅子シーティング

弓岡美咲(国立病院機構長良医療センター)

デュシェンヌ型筋ジストロフィーとは進行に伴う全身の筋力低下により座位困難や呼吸不全など重度障害を呈する疾患である。近年、医療やテクノロジーの進歩により在宅生活が可能になっている。呼吸機能・脊柱変形が重度な患者でも在宅生活できる機能的な車いすが必要とされている一方で居住スペースに合わせたコンパクトな車いすが望まれている。そのため、当院では重度患者でも在宅で利用できる車いすを検討したため報告する。

GS10 インクルーシブ教育・教育支援 8月24日(土) 9:00-10:15 第1室(S301室)

GS10-1 インクルーシブデザインで作製された実験室流し台使用時の3次元動作解析

尾上弘基(東京大学)

東京大学先端科学技術研究センターでは、「誰ひとり取り残さない」インクルーシブなキャンパスの実現を目標に、インクルーシブ・アカデミア・プロジェクトを行っている。本研究では高さの変わる流し台について、実験器具の洗浄動作を対象に慣性計測装置を用いた3次元動作解析を行った。主観的に使いやすい高さとしてそれ以外の高さを比較すると、上肢の運動に差が認められ、高さによって負担が変わることが示唆された。

GS10-2 イタリアのインクルーシブ教育における排泄環境～特別支援学校・通常学校内トイレの事例報告～

植田瑞昌(日本女子大学)

1970年代からフルインクルーシブ教育を掲げるイタリアの小・中学校及び、イタリア国内でも数少ない特別支援学校の視察をしてきた。障害のある子どもが学校内でさまざまな活動を行うためには、排泄環境は重要な要素となる。そこで、障害のある子どもと障害のない子どもが共に学ぶ空間として、排泄環境に着目し視察してきた学校のトイレ事情を事例として紹介する。

GS10-3 障害児にも配慮した誰もが学び楽しめる「動物を介した社会教育施設」の研究 第2報～動物園関係者からみた障害児・者への配慮等に関する課題と要望～

植田瑞昌(前 国立障害者リハビリテーションセンター研究所)

我々は誰もが楽しめる動物を介した社会教育施設のためのガイドライン作成を目指している。第一報では、動物園利用に関する当事者の意見と要望を報告した。本報では、障害児・者に配慮した動物園内の取組や課題等について、施設管理者・支援者等にヒアリング調査を行い、一人一人状況の異なる障害児・者に対しどのように配慮していけばよいか困惑していること等が明らかになったので、その旨報告する。

GS10-4 障害児にも配慮した誰もが学び楽しめる「動物を介した社会教育施設」の研究 第3報～動物園へのアンケート調査結果から～

植田瑞昌(前 国立障害者リハビリテーションセンター研究所)

我々は誰もが楽しめる動物を介した社会教育施設のためのガイドライン作成を目指している。第二報では動物園施設管理者等の取組や課題、要望について報告した。本報では、障害児に配慮したソフト面・ハード面の取組や課題について施設管理者等にアンケート調査を行い、結果、回答施設中57.8%がバリアフリーマップを作成していること、71.9%が障害者に配慮した職員向け研修会を行っていないこと等が分かったので、その旨報告する。

GS10-5 一人一台端末導入後の学習環境の変化について

林昌弘(愛知県立小牧特別支援学校)

本校高等部では現在一人一台端末の活用が進み、どの授業でも当たり前のように活用されるようになってきた。「デジタルとアナログの融合」をテーマに、生徒が必要な配慮に対して、指導者のさまざまな工夫が活動方法や授業展開にも見られるようになってきた。本校高等部でICT機器の活用が広がった背景や経緯と、生徒の授業環境や学習内容、取り組み姿勢などの変化について紹介し、今後の課題について考えていきたい。

OS02 海外協力・協同・支援 8月24日(土) 9:00-10:40 第2室(S302室)

OS02-1 発展途上国の障がい者支援：バングラデシュを中心として

佐野光彦（神戸学院大学）

世界の人口の15%以上の人々が何らかの障害を持っており、その80%が発展途上国に住んでいる。先進国には、以前から、なかなか結果が見えない途上国援助に援助疲れという現象も見られるようになった。そこで、国連の障害者権利条約以降、注目されている障害を持っている人々への援助、近年は特に工学的支援が、新しく、かつ効果的な援助として注目されていることを、バングラデシュの麻痺者リハセンターの例などを通じて報告する。

OS02-2 ウズベキスタンで車いすとシーティングを考えた

片石 任（株式会社フロンティア）

ポストスポーツ・フォー・トゥモロー推進事業再委託事業として、コ・イノベーション研究所が開催した「インクルーシブスポーツ普及のリーダー養成ワークショップ」に参加。車いすで持続的にスポーツを楽しめるようインクルーシブスポーツ普及のリーダー養成を目標として、パラアスリート・NPC（ナショナルパラリンピック委員会）・大学関係者向けに車いすの操作法やメンテナンス方法についてお伝えしてきた。その様子を報告する。

OS02-3 車椅子使用者の円滑な航空機利用にむけての勉強会から見えてきたこと

剣持 悟（川村義肢株式会社）

2021年を契機として、2024、2026の国際大会に合わせて、多くの車椅子使用者が海外から訪れる。しかしながら、航空機利用にあたって、身体の一部ともいえる車椅子を貨物室等に預ける必要があり、様々な課題が報告されている。本勉強会では、今までのセミナーの経緯や、現状、海外（主にアメリカ）での基準・規格の事例を紹介し、今後国内基準はどうあるべきか議論をおこなったので報告する。

OS02-4 バングラデシュの視覚障がい者教育とデジタル教科書

植村 仁（神戸学院大学）

発表内容：バングラデシュの視覚障がい者の特別支援学校で、どのような教育が行われているのか、また教科書のデジタル化はどのようになっているかについてである。バングラデシュの教育制度・特殊教育の概要、視覚障がいをもつ生徒・学生へのインタビュー結果（生徒の学校へのアクセス、点字を用いた学習・教材、ICT機器の利用）に加え、同国の公式教科書であるNCTB教科書のデジタル化についても述べる。

OS02-5 Assistive Technology Service Delivery Guidelines: A Rapid Review

KHAN MD MEHEDI HASAN（神戸学院大学）

この支援技術サービス提供ガイドラインのスコーピングレビューは、世界的に使用可能なATガイダンスを実施する必要性を知らせるために実施された。8,626件の文献から41件の文献を精査した。異なる用語やプロセス要素が使用されているにもかかわらず、サービス提供の重要な要素については強いコンセンサスが得られている。結論として、世界的に適用可能なAT提供ガイドラインが必要である

GS11 支援技術のための調査／解析 8月24日(土) 9:00-10:15 第3室(S303室)

GS11-1 OpenFace による車椅子座位姿勢の解析

阪上雅昭(京都大学)

環境に適応して動くには頭部の安定が重要である。本講演では車椅子利用者がどのような戦略で頭部を安定させているかをフリーソフト OpenFace による動画解析で得られる頭部の位置・角度データから検証する。標準型車椅子に加え頭部が鉛直になるための姿勢形成を意図したキャスパー車椅子での計測を行い、座位姿勢の違いが頭部の運動に及ぼす影響について検討する。

GS11-2 座位環境の違いが健常成人における上肢課題中の姿勢安定性と筋活動に及ぼす影響

高田 勇(金沢大学附属病院)

座位環境の違いが上肢活動に与える影響を筋電図の観点から検討した報告はない。過去に我々は、胸郭から骨盤背側の連続的な支持面を提供する座位環境が、標準的な環境より上肢課題中の筋活動と筋疲労を抑制することを症例報告した。今回は基礎的検討として6名の健常成人を対象に、ウェアラブルセンサを用いて上肢課題中の頭部動揺と筋活動を同時計測し、座位環境の違いが姿勢安定性と筋疲労に及ぼす影響を検討した。

GS11-3 車いすの設計支援を目指した身体3Dワイヤーフレームモデルの開発

塚田敦史(名城大学)

本演題では車いすの設計支援を目的に、身体各部位の質点配置や質量の大きさを可視化でき身体姿勢の特徴を表現可能な身体3Dワイヤーフレームモデルの開発を目指している。これまで20-24歳男性50パーセンタイル相当の身体ワイヤフレームモデルの構築を進めてきた。そして障がいのある身体変形に対応できる3Dワイヤーフレームモデルの開発を目指し、脊柱モデルで身体変形を表現できる手法を探索した。その経過を報告する。

GS11-4 支援機器開発における医療専門職の関与実態—支援機器開発企業へのアンケート調査—

澤田有希(帝京科学大学)

本研究は、企業内での医療専門職の関与、支援機器開発の事例等を明らかにすることを目的とし、支援機器関連企業807社を対象に、アンケート調査を行った。その結果、企業としては医療専門職を雇用することは難しくても、何らかの形で関わりを持ちたいと考えていること、開発がうまくいったと考えている事例では医療専門職との関わりが多いことが明らかとなった。

GS11-5 障害者自立支援機器における新たな開発領域の開拓に向けた調査

城岡秀彦(株式会社日本総合研究所)

障害者を取り巻く環境変化により、求められる支援機器が変化している。開発を促進すべき機器領域の把握を目的に、開発動向に関する机上調査、及び開発企業や有識者に対するヒアリング調査を行った。結果を踏まえ、新たな開発領域として、緊急時の情報取得・発信支援、感覚特性に応じた支援、ことばを平易な表現に翻訳する支援等の7領域13項目を整理した。これらの開発が進むことにより、障害者の社会参加促進が期待できる。

GS12-1 新しい体育と文化芸術の融合"パラブレイキン"の取り組み

松田靖史(川村義肢(株))

2024 パリオリンピックではブレイキンが正式競技となりました。実はダンスはスポーツより身体を動かすアクティビティとしてエントリーのハードルは低く、心身に障がいを持つ児童が取り組むには適しています。我々は公的な障がい者スポーツ施設や障がい者交流センターと連携し音楽に合わせて身体を動かすブレイクダンスを基にした文化芸術活動を令和2年より行ってきました。これらの活動の内容と障がい当事者への影響を報告します。

GS12-2 VR 型チェアスキーシミュレータのための機体の提案と試作

小枝瞭介(金沢工業大学大学院)

主に下半身に障がいのある人がプレーするチェアスキーは、広く普及していない現状にある。そこで、季節と場所を問わず、誰もが気軽にチェアスキーを擬似体験できるシミュレータを開発することを研究の目的とする。本研究では、左右に身体を傾けて方向転換ができる操作性の高い機体を提案するとともに、これを試作し評価実験を行った。従来型の VR 型シミュレータと比較した特長について、ヒアリング調査結果と併せて報告する。

GS12-3 VR 型チェアスキーシミュレータの臨場感向上についての考察

田村善伸(金沢工業大学大学院)

チェアスキーは、主に下半身に障がいのある人が専用の機器を使用して座位で滑るスキーであるが、プレーヤーの数は少ないのが現状である。本研究では、チェアスキーを広く普及することを目的に、未経験者や関心のある人たちが気軽に楽しむことができるシミュレータの開発をめざす。本報告では、視覚、聴覚を含め、身体全体で臨場感のあるスキー滑走の擬似体験ができるシミュレータのシステム構成や VR コンテンツについて紹介する。

GS12-4 チェアスキー滑走中の3次元動作分析 ―健常者と脊損者の比較―

玉垣 努(神奈川県立保健福祉大学)

現在、チェアスキーの動作分析に関しては、実際のゲレンデにおける3次元動作分析はされていない。今回、光学的な手法ではなく、空間位置情報をモーションセンサー(加速度、ジャイロ、磁気9軸)を利用した、ポータブル3次元動作解析装置を使用することで、ゲレンデでのチェアスキー滑走中のチェアスキーヤーの動作分析が可能となった。脊髄損傷者と健常者間の滑走中の身体反応の違いを比較検討を実施したので報告する。

GS13 ケースシリーズ 8月24日(土) 10:40-11:25 第3室(S303 室)

GS13-1 側方移乗時の股関節外転・外旋運動が制御できず移乗自立困難であったが、熱可塑性ギプス包帯で作成したアーチ型の用具を使用することで側方移乗が自立した胸髄損傷例

野田笑美(花はたりハビリテーション病院)

患者は脊髄梗塞により対麻痺を呈した50歳台女性。褥瘡治療期間中に著明な両足関節底屈拘縮が生じ、足底全面接地が困難だった。これにより側方移乗時に両股関節が外転・外旋してしまい動作獲得に難渋した。熱可塑性ギプス包帯でアーチ型の用具を作成し、移乗時の股関節外転・外旋を制御したことで、側方移乗が自立した。アーチ型の用具は随意的な股関節外転・外旋の制御が困難な症例に対し、側方移乗の難度を下げると思われる。

GS13-2 動作能力に合わせ短下肢装具を調整したことで立位姿勢が改善した不全胸髄損傷例

木幡茉季(花はたりハビリテーション病院)

化膿性脊椎炎により不全胸髄損傷を呈し対麻痺を認めた70代女性の患者で、身体能力は下肢筋出力を認めたが動作時に痙性が強く、立位保持が困難であった。本患者に両側の短下肢装具を作製し、動作能力に合わせ短下肢装具を調整し立位・歩行練習を実施した。短下肢装具を使用し難易度を調整した立位・歩行練習を反復したことにより、痙性筋の代償的な筋収縮を抑制しつつ適切な筋収縮の再学習に繋がり、立位姿勢の改善に至った。

GS13-3 精神障害者の住環境整備の症例

下田 誠(名古屋市総合リハビリテーションセンター)

令和3年より名古屋市障害者住宅改造補助事業の補助対象者に、精神障害者保健福祉手帳1級または2級の所持者が加わった。精神障害者に対する住環境整備費用の助成をしている都市は少なく、住環境整備に着目した文献なども極めて少ない。今回、本事業を利用して行った住環境整備の症例について報告する。

OS03 介護ロボット 8月24日(土) 13:10-14:40 第2室(S302室)

OS03-1 デスクトップロボットを用いた食事支援システムの試作

垣本 映（職業能力開発総合大学校）

頸髄損傷者や脳性マヒ者の方等を対象とした国産の食事支援ロボットが製造中止となった。国の介護ロボット重点分野でないものの新たな機器への期待がある。近年、動作教示の容易な教育用デスクトップロボットが開発されており、これを活用した食事支援ロボットの試作を行っている。欧米のロボットに見られるスプーン活用とし携帯可能な機器をめざす。入力機器はスイッチ入力の他に非接触入力による操作の簡単化も検討している。

OS03-2 介護ロボット導入支援スキームを用いた障害者就労支援における SEM Glove の活用と効果

冨板 充（名古屋市総合リハビリテーション事業団なごや福祉用具プラザ）

脳血管障害者の就労支援において非麻痺手中心の作業訓練や職場の環境調整支援は、時に復職訓練のモチベーション低下を招き訓練の継続を困難にする。介護ロボット導入支援スキームを用い支援者連携を図りながら、麻痺側の運動機能を補う自立支援型のパワーアシストグローブ（SEM Glove）を訓練場面で用いることで、作業性とモチベーションが向上し、活動・参加が変化した事例について報告する。

OS03-3 名古屋市介護ロボット導入効果検証事例報告

長尾 美幸（名古屋市総合リハビリテーション事業団なごや福祉用具プラザ）

令和元年度より名古屋市介護ロボット等活用推進事業を社会福祉法人名古屋市総合リハビリテーション事業団なごや福祉用具プラザが実施している。その取組の一つである介護ロボット導入効果検証において、市内の特養・老健などで実際に介護ロボットを導入して効果を検証してきた。地域での介護ロボット導入検討・活用の一助となるように、これまでの介護ロボット導入効果検証を振り返り報告する。

OS03-4 名古屋市介護ロボット等活用推進事業の報告

長束 晶夫（名古屋市総合リハビリテーション事業団なごや福祉用具プラザ）

なごや福祉用具プラザでは介護従事者の負担軽減や定着、介護の質の向上を目的として、介護ロボットの活用を推進するため、令和元年度から名古屋市介護ロボット等活用推進事業を実施している。これまでの介護ロボットに関する相談、伴走支援、普及啓発などの取り組みから介護ロボットの導入・活用の効果、必要な事項、課題や今後の展望について報告する。

IS18 インタラクティブセッション 8月24日(土) 13:10-14:10 第5室(S306室)

IS18-1 障害の程度が異なる3名の脳性麻痺者による同じ支援装置を共有しギター演奏練習をする試み

伊藤克久 (C-POWER グループ クリパラボ)

自立の促進、生活の改善、身体機能の維持向上を目的とした通所型の生活介護事業所において、脳性麻痺の障害がある3名が、楽器演奏支援装置 F-Ready を使用して、自主的にギター演奏練習に取り組んでいる。障害の種類は同じでも、障害の程度や日常生活動作が異なる3名が、同じ支援装置を使用する上での工夫や課題について検討する。

IS18-2 被災者の不安・ストレス軽減を目的としたロボット介在活動の検討 ―aibo による介入―

野口裕美 (四條畷学園大学)

東日本大震災が8年以上経過した時点において、被災地、宮城県南三陸町在住の被災者を対象に犬型ペットロボット aibo を用いたロボット介在活動を複数回、継続的に実施し、主観的指標と生理的指標にて被災者の安感情やストレスにどのような変化、効果をもたらすのかを調査した。結果、不安の軽減や交感神経の活性化が認められ、ペット型ロボットの介入によって不安の軽減や交感神経の活性化が期待できると考えられた。

IS18-3 起立動作誘導介助スキルアップ器具の考案

横山哲也 (神奈川県総合リハビリテーションセンター)

起立動作の誘導スキルが5分程の練習で上達する練習器具を考案した。本器具は体幹・大腿・下腿と膝・股関節を模した3本の棒と接続部で構成され、これら进行操作することで対象者の支持面や重心の位置などを学習できる。実際に使用した当院の若手療法士や看護師10名全員においてスキルアップと「誘導方向がわかるようになった」「腰が楽になった」という感想が得られたため、筋電図などを計測して本器具の効果を検証している。

IS18-4 札幌市の凍結路面におけるガラス繊維配合杖先ゴムの有効性に関する研究

香田潤 (株式会社つえくつ)

札幌市の冬季凍結路面は社会問題になるほど滑ることで知られる。従来から転倒防止のために杖先に折りたたみ式アイスピックが用いられてきたが鋭利で危険。近年はガラス繊維配合の杖先ゴムが登場してきたが、滑り止めとして有効なガラス繊維配合量について現実の路上での検討はほとんどされてこなかった。札幌市内で滑りやすい危険個所で天然ゴム板・ガラス繊維配合やや多め・配合やや少なめ3種で滑り止め効果を検証した。

IS18-5 MR (Mixed Reality) を用いた住環境シミュレーションシステムの試作

江原喜人 (総合せき損センター)

車いすを使用者の住宅改修において、トイレや浴室における動作のシミュレーションは非常に重要である。シミュレーションを行う環境は、実際に近いほど有効であるが、病院内に自宅や改修後の環境を忠実に再現することは非常に難しい。そこで、MR (Mixed Reality: 複合現実) 技術を用いて、シミュレーション空間に自宅や改修プランの3Dモデルを原寸で投影させ、視覚的、寸法的に再現性の高いシミュレーション環境の構築を試みた。

IS18 インタラクティブセッション 8月24日(土) 13:10-14:10 第5室(S306室)

IS18-6 稲穂型歩行支援機の試作

鈴木光久（名古屋市総合リハビリテーションセンター）

本件では、今仙技術研究所が販売している無動力歩行支援機 ACSIVE の元原理となる、受動歩行ロボット（名古屋工業大学：佐野ら）の股関節カム・バネ機構の要素から、揺動慣性に着目した新原理の歩行支援機の試作を紹介する。腰に乗せるだけで、歩行時の上下揺動によってピアノ線（弾性体）が稲穂の如く変形し動的な力を歩行支援に活かしている点が特徴で、「荷物があると楽になる」新原理の歩行支援機である。

IS18-7 近接スイッチ（ファイバースイッチ）の再開発と機能の追加

伊藤和幸（国立障害者リハビリテーションセンター研究所）

光ファーマを用いた近接スイッチは 2023 年 4 月より販売終了となった。近接スイッチは非接触で微細な動きを検出するために有効なスイッチであるが、販売終了に伴い該当するスイッチがなくなってしまった。そこで、これまでのファイバースイッチと同じ検出機能を持つ近接スイッチを再開発する。同時にファイバースイッチの欠点であった点を改良し新規機能を付加したので紹介する。

GS14 生活空間デザイン 8月24日(土) 14:40-15:55 第1室(S301室)

GS14-1 頸髄損傷者の至適温湿度範囲に関する研究－中間期、且つ相対湿度 40%での至適温度範囲について－

三上功生（国立障害者リハビリテーションセンター研究所）

既報では、人工気候室実験より頸髄損傷者（以下頸損者）の中間期、且つ湿度 50、70%での至適温度範囲が $25 \pm 1^{\circ}\text{C}$ と報告した。今回は頸損者 10 名を対象とした人工気候室実験より、中間期、且つ低湿度である 40%での至適温度範囲を推定した。その結果、湿度 40%での至適温度範囲は湿度 50、70%の時と同じ $25 \pm 1^{\circ}\text{C}$ と推定された。従って、頸損者の中間期の至適温湿度範囲は $25 \pm 1^{\circ}\text{C}$ 、湿度 40～70%と推定された。

GS14-2 家族みんなの暮らしに伴走する二世帯住宅への増築リフォーム－状況の変化に幅広く対応できる余白を持たせた住まい－

天米 穂（株式会社神崎工務店）

くも膜下出血により右片麻痺を呈した女性。元々は、脳出血の既往を持つ夫を介助しながら夫婦で暮らしていたが、本人の発症により娘家族と同居。屋内外を短下肢装具と T 杖を利用し移動、ADL は環境調整により修正自立。この度、様々な状況の変化や車いすにも対応した段差のない増築・外構工事を計画。暮らしのニーズを満たしつつ、既存部と増築部のキッチンを繋げることで、家族間の心地よい距離感を実現した住まいの事例を報告する。

GS14-3 在宅生活における内部障害者の評価と住宅改造

佐藤 晃（名古屋市総合リハビリテーションセンター）

名古屋市障害者住宅改造補助事業の対象者は、内部障害 1 級、2 級の手帳取得者を含んでいる。内部障害者は食欲不振、骨格筋量減少等により全身体力が低下するが、併存疾患を除けば、脳神経や運動器の障害は無い。したがって活動制限の程度は、動作観察より主訴で評価することが多いが、そのみで内部障害による特異的な問題とするには不十分である。そこで評価項目に握力、指輪っかテスト、転倒歴等を加えて判断しているのを報告する

GS14-4 人工呼吸器を使用している医療的ケア児の住環境に関する研究 その 1-保護者が抱える住生活上のストレスの実態と満足度-

西村 顕（横浜市総合リハビリテーションセンター）

人工呼吸器を使用する医療的ケア児に着目し、停電時の電源確保や毎月大量に届く医療付属品（吸引チューブ等）の整理方法、夜間ケア、入浴ケア等、住生活上の課題をアンケート調査により把握した。このような様々な課題を「住生活上のストレス」とし、どのようなケアや状況が保護者のストレスを引き起こしているか、また住宅の満足度にどのような影響を与えているかを明らかにし、関連する要因を整理した。

GS14-5 人工呼吸器を使用している医療的ケア児の住環境に関する研究 その 2 - 医療的ケアに必要な物品量の実態 -

大泉江里（SMA 家族の会）

前報のアンケート調査から承諾を得られた 8 事例について訪問を実施し、人工呼吸器を使用する医療的ケア児とその家族の生活実態を把握した。特に物品量の多さに着目し、医療的ケアに関係する物品を 6 分類(1 オムツ関連、2 食材薬関連、3 ケア付属品関連、4 蓄電池関連、5 医療機器関連、6 福祉用具関連)し、それらを実測した。医療的ケアの内容が物品量の多寡や住宅形態にどのように影響しているのか分析をおこなった。

OS04 スポーツ 8月24日(土) 15:00-16:40 第2室(S302室)

OS04-1 車いすユーザーのセルフトレーニング 脊髄損傷者専門トレーニングジム J-Workout の取組

伊佐 拓哲(ジェイ.ワークアウト株式会社)

ジェイ.ワークアウト株式会社の i-Self Workout の事例から車いすユーザーのセルフトレーニングを考察する。

OS04-2 日常的に使用している車椅子に容易に着脱可能な車椅子サッカー用フットガード「ファンガード」の開発

中村 詩子(横浜市総合リハビリテーションセンター)

普段使用している車椅子の前方に「仮)ファンガード」を取り付けて、ボールを蹴ってサッカーを楽しむための、開発と支援を13年前から取組んでいる(福祉機器コンテスト優秀賞受賞2012年)。全国からの商品化のご要望をいただき、2025年春の発売に向けて開発中である。ゆっくりした楽しいサッカーという意味で「ファンサッカー」と呼び、簡易型電動車椅子や自走・介助用車椅子を使う幼児から大人までが楽しめることを目指している。

OS04-3 車椅子ソフトボール用競技車の製作報告

酒井 靖史(東名ブレース株式会社)

車椅子ソフトボールは誰でも競技に参加出来るアダプテッドスポーツであり、知名度を向上し、パラリンピックの正式種目を目指しています。今回多発性硬化症により松葉杖歩行の方が競技を始めるにあたり、自分専用の競技用車椅子を製作する上で、競技の特性と競技参加実績による経験値を活かした設計による製作を行ったので報告する。

OS04-4 パラサイクリングにおける自転車の改造

荒賀 博志(日本福祉大学)

パラサイクリングには、障害別にクラス分けがある。上肢障がい、下肢障がい、脳性麻痺、視覚障がいに分かれており、各クラスの障害の程度に合わせて自転車の操作(ブレーキ、ギア等)が可能になるように自転車の部品を改造、改良している。日本パラサイクリング連盟の強化・育成選手、連盟登録選手の自転車が、それぞれの障がいに合わせてどのように工夫してパフォーマンス向上に取り組んでいるか写真を中心に紹介していく。

OS04-5 上肢障害者のアーチェリーにおける行射方法について

大河原 裕貴(名古屋市障害者スポーツセンター)

アーチェリーは両手を使い弓と弦を引き分け、数十メートル離れたターゲットに向けて矢を放つスポーツである。今回、引き分ける動作に支障のある上肢に障害のある方が、自助具等を使いアーチェリーを楽しんでおられる事例を紹介する。

GS15-1 新生児から活用できる姿勢保持椅子

西山慎一郎(株式会社アシスト)

新生児からの姿勢保持を目的とした姿勢保持椅子の病院(NICU、PICU)での活用、在宅での活用を紹介。新生児から座位を取ることで、呼吸や睡眠の質の向上や肺炎予防につながることを小児リハビリテーション専門家の見解を元に報告する。またティルト角度の調節が容易である、枕の上下位置・前後位置・角度の調節が可能である、軽量であるなど、機器の特長を当事者家族の活用事例も交えて紹介。

GS15-2 リラックスするからこそアクティブになれるという現象の言語化

向坂愛理(株式会社 Simpray)

肢体不自由児における過緊張や痙性と言われる現象の多くは、重力に対する不安定な環境から引き起こされる本人なりの工夫だったということが、キャスパーアプローチを通じて結果が得られている。その中で起きていることを説明する際に「リラックスするからこそアクティブになれるという言語化」が必要であるということから今回、我々のグループで「リラアクティブ」という言葉を新たに定義づけたため報告する。

GS15-3 肢体不自由児の電動移動機器導入における記録と分析

藤田ひとみ(日本福祉大学)

自力移動が困難な乳幼児を対象に、発達を保障する観点からの試みとして電動移動機器が導入され始めている。これまでは、脳性麻痺を中心とした肢体不自由児が多く、知的障害をもつ児においてはほとんど検討されてこなかった。今回は、福山型先天性筋ジストロフィーをもつ幼児に電動移動機器を早期から導入した事例を紹介し、児の操作能力の獲得過程を記録し、変化を解析していくことで一般化していく取り組みについて報告する。

GS15-4 0歳からの姿勢保持 具体的なケース紹介

村上潤(NPO法人 ポップンクラブ)

新生児からの姿勢保持を目的とした姿勢保持椅子の病院(NICU、PICU)での活用、在宅での活用を紹介。新生児から座位を取ることで、呼吸や睡眠の質の向上や肺炎予防につながることを小児リハビリテーション専門家の見解を元に報告する。またティルト角度の調節が容易である、枕の上下位置・前後位置・角度の調節が可能である、軽量であるなど、機器の特長を当事者家族の活用事例も交えて紹介。

GS15-5 椅子の形状による肢体不自由児の座位姿勢の変化

大久保雅弘(New Platform)

特別支援学校における自立活動は、学習指導要領上に「障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を授けることを目的とする」と示されている。一方で、本取組では児童生徒が日常を過ごす椅子やベッド等の環境設定を見直すことで「学習上または生活上の困難」が改善した事例を取り上げる。このことから、障害が原因と考えられていた多くの困難が、環境設定によって解消される可能性を示したい。

OS05 ユーザー 8月25日(日) 9:00-10:35 第1室(S301室)

OS05-1 松葉杖使用者が電動車椅子を併用することで見えてきた意義と課題

金井 謙介(神戸学院大学)

ファースト／ラストワンマイル移動が社会課題となる中、最も困難を抱えている松葉杖使用者が電動車椅子を併用することで得られるメリットや課題、ニーズ等について使用体験から検証と考察を行った。その結果、生活の拡大や二次障害の予防、経済的メリット等の社会的有効性とそれに向けた現状の各種課題が示唆され、誰もが自由で快適な移動や生活が行える社会を目指すうえでの議論の一視点を提示することができた。

OS05-2 訪問介護における多言語コミュニケーション支援ツールの効果と課題

近藤 佑次(愛知県重度障害者の生活をよくする会)

重度障害者の私が外国人訪問介護ヘルパーとの言葉の壁により、満足な生活が送れない状況を紹介します。介護人材不足が進む中、外国人介護士の増加が予想されるため、コミュニケーションの課題は避けられません。実用性のあるコミュニケーション支援ツールの必要性について、皆さんと共に考える機会としたいと思います。

OS05-3 筋ジストロフィー患者にとって大切さと喜び 非侵襲的人工呼吸療法(NPPV)と車いすシーティング(ABS)

足達 恵理(筋ジス患者「団結の会」)

子どもの頃から進行性の筋ジストロフィーという難病を患った私は、生きていく為には常に必要な医療やモノを探す旅のようでした。その中で出逢えた鼻マスクによる非侵襲的人工呼吸療法と電動車いすのシーティングの医療です。それは終日人工呼吸器を使用する今の私の命と活動を維持してくれているモノです。その出逢いと共に生きる私の生活をお伝えしたいと思います。

OS05-4 名古屋城木造化によってエレベーターが設置されない件

小川 直人(社会福祉法人AJU 自立の家)

名古屋城木造化について、古くからの史料が数多く残されていたことにより史実に忠実な復元をということで木造計画が始まりました。しかし計画の中にはエレベータという言葉はありませんでした。これほど世の中がインクルーシブ(共生社会)を進めて行こうとしているのにまた障害者を排除するのでしょうか？エレベータがあれば障害者などの排除はなくなり、みんなで一緒に名古屋城観光に行けるのではないのでしょうか？

GS16-1 スイッチインターフェースのワイヤレス化について

木澤健司(東京都立水元小合学園)

MaBeee は、単4電池に bluetooth で on/off を操作できるようなカバーを装着し、単3電池で動く製品をアプリで操作ができる製品である。アプリの操作画面は、スイッチやレバーの他に声量で on/off をコントロールできる。本報告では、とても簡単な電子回路を作成し、単3電池の on/off を用いることで、スイッチインターフェースへ on/off の信号を送ることを試行した。

GS16-2 コンピュータ入力装置のための画像処理技術

六名泰彦(吉備高原医療リハビリテーションセンター)

現在我々は、画像処理技術を用い、GUI 環境下において、手の動きによりコンピュータ操作が行える入力デバイスの開発を行っている。ここでは、頸髄損傷者が動作可能な手の動作により、マウスのスイッチ操作に該当するクリックなどの制御を試みたので報告する。

GS16-3 聴覚障害者のための Raspberry Pi を用いた発言者特定システムの開発

中村伸一(日本福祉大学)

複数人が参加するミーティングは様々な方向から発言があるため、聴覚に障害があるとどの方向の発言者が特定困難な場合があり、特定する間は発言内容が得られずミーティングの参加が難しくなってしまう。そのため、発言者の方向を表示することで特定を支援するシステムを開発した。システムは複数方向の音を収集できるマイク、Raspberry Pi、方向表示するプログラムで構成されており、安価にシステムを構築でき可搬性に優れている

GS16-4 離れた場所において会えない人とのコミュニケーション方法

高橋宜盟(一般社団法人結ライフコミュニケーション研究所)

コロナ禍以降、病院や施設にいる人との面会が、家族であっても週に1回に制限されるといったことが、第5類に移行してからも継続されているところは少なくありません。面会制限期間中に入院や入居が決まってしまった場合には、コミュニケーション機器の設定や操作説明もままならないままといったことも多くあります。そんな中に、本人が機器操作をしなくても交流を続けるためのいくつかの方法を実践している方法を共有します。

GS16-5 スイッチブースター導入事例のその後

上野忠浩(横浜市総合リハビリテーションセンター)

2020年から発売開始した「スイッチブースター」をこれまでに6人に導入してきた。全員四肢まひが在り、パソコンやコミュニケーションエイドなどをスイッチ操作するために利用していた。最近あるユーザーに本機器の利用状況を確認したところ当初の使用場面では使わなくなったことが分かった。アフターフォローのためその他のユーザーについても現状を確認し、利用状況の変化の有無とその理由について調べその現状と対策を報告する。

GS17 支援機器開発 8月25日(日) 9:00-10:35 第3室(S303室)

GS17-1 シュクレN・シュクレNextの導入事例と汎用性について

村上玄(株式会社アシスト)

計量かつコンパクト設計により、日常生活の豊かさを追求し、使用者の使いやすさと介助者の利便性を向上させることが可能です。柔軟な対応と安定した姿勢を提供することで、どんな場面でも高い汎用性と安定性を実現します。これにより、製品の実用性と効率性が向上し、生活の豊かさをもたらす可能性が高まります。

GS17-2 技術による地域課題解決の取り組み

藤澤義範(長野工業高等専門学校)

本発表では、長野高専(以下、本校)で行ってきた地域課題の解決に向けた活動を紹介する。我々は、令和2年に県内の特別支援学校に向けて地域課題に対するアンケート調査を実施している。寄せられた地域課題に対して、すでにあるこなれた技術を使い、速やかに解決できる課題を解決するための支援機器を複数開発している。本発表では、これまでに本校にて開発してきた支援機器およびWebアプリについて説明する。

GS17-3 炭素繊維強化熱可塑性プラスチックを用いた両側支柱付き短下肢装具製作方法の紹介

早川康之(北海道科学大学)

金属支柱装具は、変形に対する矯正に優れるが、重く、錆びるなどの問題点がある。我々は、支柱、下腿カフを炭素繊維強化熱可塑性プラスチック(CFRTP)で成形することで、金属支柱装具の特徴を持った、軽量で下肢の変形への微調整が可能な両側支柱付き短下肢装具の開発を進めており、金属支柱付き短下肢装具と比較して、30%の軽量化を実現している。このCFRTP支柱付き短下肢装具の支柱および下腿カフの成形方法について紹介する。

GS17-4 真空エジェクタを応用した呼吸管理中の患者のための空気供給装置の提案

大恵克俊(日本文理大学)

ALS等で呼吸管理が必要となり気管切開を行った患者は、声帯に空気を送れなくなるため発声が不可能となる。このような患者のため、酸素供給装置により気管内に空気を流し声帯を振動させる方法が用いられるが、機器が大型である等の問題点がある。そこで我々は小型ポンプを用いた空気供給装置の研究を行ってきた。今回は高流量実現のために真空エジェクタを応用した構造を提案、有限要素解析を行ったのでその成果について述べる。

GS17-5 AIを利用した対話型アセスメントツール「ATチャットボット」の開発

関裕基(早稲田大学)

2020年から発売開始した「スイッチブースター」をこれまでに6人に導入してきた。全員四肢まひが在り、パソコンやコミュニケーションエイドなどをスイッチ操作するために利用していた。最近あるユーザーに本機器の利用状況を確認したところ当初の使用場面では使わなくなったことが分かった。アフターフォローのためその他のユーザーについても現状を確認し、利用状況の変化の有無とその理由について調べその現状と対策を報告する。

後援

内閣府、総務省、経済産業省、厚生労働省、文部科学省、国土交通省、公益財団法人テクノエイド協会、国立研究開発法人情報通信研究機構、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構、独立行政法人福祉医療機構、社会福祉法人全国社会福祉協議会、特定非営利活動法人日本障害者協議会、一般社団法人日本福祉用具・生活支援用具協会、一般社団法人シルバーサービス振興会、公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団、一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会、一般社団法人日本福祉用具評価センター、公益社団法人日本リハビリテーション医学会、愛知県、名古屋市、東海市、日本福祉大学、社会福祉法人名古屋市総合リハビリテーション事業団、一般社団法人愛知県作業療法士会、一般社団法人愛知県言語聴覚士会、社会福祉法人名古屋市身体障害者福祉連合会、社会福祉法人 AJU 自立の家、ウェルネスバレー推進協議会、社会福祉法人日本介助犬協会、公益社団法人愛知県理学療法士会（順不同）

協賛

RESNA（北米リハビリテーション工学協会）、AAATE（欧州リハビリテーション工学協会）、ARATA（豪州リハビリテーション工学協会）、RESKO（韓国リハビリテーション工学協会）、一般社団法人ライフサポート学会、公益社団法人日本生体医工学会、一般社団法人日本機械学会、公益社団法人計測自動制御学会、バイオメカニズム学会、一般社団法人日本特殊教育学会、一般社団法人日本生活支援工学会、特定非営利活動法人ヒューマンインタフェース学会、日本地域福祉学会、公益社団法人日本理学療法士協会、一般社団法人日本作業療法士協会、公益社団法人日本社会福祉士会、公益社団法人日本看護協会、一般社団法人日本言語聴覚士協会、公益社団法人日本義肢装具士協会、日本教育工学協会、一般社団法人日本車椅子シーティング協会、臨床歩行分析研究会、感覚代行研究会、特定非営利活動法人日本シーティング・コンサルタント協会、日本身体障害者補助犬学会、一般社団法人日本福祉のまちづくり学会、認定 NPO 法人 DPI 日本会議、一般社団法人日本人間工学会、視覚障害リハビリテーション協会、一般財団法人全日本ろうあ連盟、全国頸髄損傷者連絡会、公益社団法人全国脊髄損傷者連合会、一般社団法人日本筋ジストロフィー協会、一般社団法人日本 ALS 協会、一般社団法人全国肢体不自由児者父母の会連合会、福祉用具プランナー研究ネットワーク（順不同）

企業展示

アクセスエール株式会社
株式会社アシスト
アビリティーズ・ケアネット株式会社
株式会社 InterGate
株式会社ウェルネット研究所
株式会社エヌ・エフ・ユー
株式会社オレンジアーチ
クリスタル産業株式会社
株式会社ジェイテクト
学校法人 慈恵大学
タカノ株式会社
ダブル技研株式会社
株式会社ニッシリ
ハートランド・データ株式会社
橋本エンジニアリング株式会社
丸菱工業株式会社
株式会社ミキ
株式会社モリトー
L00VIC 株式会社

(50 音順)

合理的配慮の実施に大切な、 「アクセシビリティ」について 学んでみませんか？

さんの受講コース

完了率 100%

未着手 0
受講中 0
完了 1

受講コース一覧

完了
アクセシビリティ e-Learning Program (初級編)

初級編として「アクセシビリティ」とは何か アクセシビリティに関する社会の取り組み 具体的な社会的取り組み (視覚障害) 具体的な社...

進捗: 5/5
理解度テスト: 合格
終了期限: 2024/12/31

[初級編]
1. アクセシビリティとは

Accessibility

[æksèsəbɪləti]

ある場所に行けたり、あることがしやすくなる可能性を高めること

**e-Learningで
いつでもどこでも無料で学べます。**



<https://asc-jikei.jp/e-learning/>

emigo II neoNOPPO

楽歩 Basic

円背対応車いすの
パイオニア！
背折れ機能付き
3次元立体シーティング

歩行補助・休息・
もしもの時の介助式
車いすの3WAYでの活
用が可能

モジュラー式&チルリク
自走式車いす
電動走行・電動チルリクも
可能です



カルバオン株式会社

938-0801 富山県黒部市荻生 388-1
TEL : 0765-57-3888 FAX : 0765-57-3266

「気持ち伝わる」

ORANGE ARCH

「eeyes」は、限りなく小さい身体動作で、自分の意思を伝達するための福祉機器です。

重度障害者向け意思伝達装置

eeyes

イイアイズ

スイッチや視線で簡単操作

世界発信コンペティション 特別賞受賞



言葉を紡げる

読み上げられる

絵文字も使える

メールが出せる

家電を操れる

設置や設定が簡単

チャレンジできる



車いすでは
ありません！
目的とした
スタンディングを

NOVA_RiseActiveは、
スタンディング
車いすですが...



➡ NOVA_RiseActive ノーヴァ ライズアクティブ

日々の生活シーンで最適なポジションを選択できる
「マルチポジショニング ウィールチェア」です。



FORCE
MASTER OF WHEELCHAIR POWERED BY MIKI
miki-force.jp

株式会社 ミキ

〒457-0863 名古屋市南区豊三丁目38番10号
お問い合わせは 株式会社 ミキ お客様サポート窓口 まで
TEL 0570-00-9993 ※愛知県への通話料が発生します。
[ミキホームページ] <http://www.kurumaisu-miki.co.jp/>

この機種の
Webページは
こちらから
アクセス。
FORCE
WEB



この機種の
動画は
こちらから
アクセス。
MOVIE



仕様は、製品改良のため予告なく変更される場合があります。
■ 当社製造商品生産物賠償責任保険に加入しております。

＼ フォローお願いします！ ／



X (twitter)

＼ インターネットショップ入口 ／



くらそつとねっと
Linked your life online

Kurasott

暮らしに“そつと”寄り添う。

豊かな暮らし、お届けします。

くらそつとは株式会社エヌ・エフ・ユー（日本福祉大学グループ）
が運営している店舗です

くらそつと 半田店 / ユウナル東海店（カフェ併設）



子ども用シャワーチェア
SOCOTTO
ソコット

いちよい時間にする



心を形にするテクノロジー、あります。
TAKANO HeartWorks
タカノ株式会社

〒399-4431 長野県伊那市西春近下河原5331

TEL.0265-72-3157 <https://www.takano-hw.com>

FAX.0265-72-3203 fukushi@takano-net.co.jp



フリーダイヤル
0120-825-845

【受付時間】
土日祝日除く 月～金曜日 9:00～17:00



公式HP

フルラインナップ

意思伝達装置

スイッチ
食事介助ロボ

**公費申請
サポート**

**施設
自宅
病院
デモ
可能**

ダブル技研株式会社

お問合せ
ご相談は  **お電話から**

☎ 046-506-5611

 **営業時間** 8:30～17:30 (土日祝 休み)

 **住所** 神奈川県座間市栗原920-7

ダブル技研 

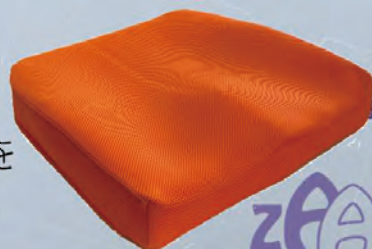


臀部の左右差にお困りの方 夏のアセ蒸れにお困りの方

第25回石川県バリアフリー社会推進賞 福祉用具部門 最優秀賞



前後左右の柔らかさ・高さを
パーツ交換で調整可能です



zFAkix
ザーキックス

抜群の通気性と座り心地！

モールド型なのにベットへの移乗を楽々支援



アセ蒸れから解放 左右差調整
採型から製作もOK

移乗支援型

zFAkix
ザーキックス

シン次元のフィット感！



お問合せは (株) **InterGate** (インターゲート) zaakix.intergate-j.com

石川県金沢市四十万町イ151 TEL : 076-298-6266



あなたのコエで助かる事前収録型・音声支援ナビ&ガイド
安全・安心に外出したいご利用者とご家族・ご支援者へ

1 身内/ご支援者（音声を事前収録する人）

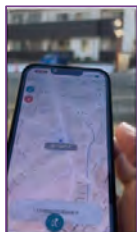


外出時の安全支援・記憶支援情報を収録

1. アプリを開始
 2. 相手の名前を呼ぶ（音声認識）
 3. 相手を想い、見えている景色を伝える（吹き込む）
- <音声収録+GPS連携環境開発済>



お母さん、
そこ、段差があるから
気を付けてね。



身内/ご支援者

4. 立ち位置に見えている景色の中に言葉が設置される

連れ添っているイメージで
言葉として想いが届く



ご利用者の
個性を知る人
からの音声



2 ご利用者（音声を用いて移動する人）



自立促進
病院、スーパー
駅、公園など



おかあさん、
いつも立ち寄っている
お魚屋さんが見えてきたよ



LINEや
電話が
できる方
向け



シュクレNext
【姿勢保持装置】



シュクレバギー
【車椅子（バギー）】

All for Smile すべては笑顔のために

シュクレシリーズをはじめ、さまざまな福祉機器を開発・販売しています。また、姿勢保持装置のオーダーメイドの受注も請けておりますので、業者様もお気軽にご相談ください。

実際にシュクレシリーズをお使いいただいた方の動画集（ビフォーアフター動画）



シュクレシリーズはカスパーアブローチに基いて開発された製品です。カスパーアブローチについては、NPO法人ポップンクラブのホームページをご覧ください。



<https://popnclub.jp>



シュクレN
【姿勢保持椅子】



シュクレNドライブ
【カーシート】

ASSiST

☎ 0721-60-2833
[https:// assist-info.jp/](https://assist-info.jp/)



ホームページ



Instagram



公式ライン

実行委員会

大会長： 渡辺崇史 （日本福祉大学）

実行委員長： 長束晶夫 （なごや福祉用具プラザ）

副実行委員長： 北野義明 （石川県リハビリテーションセンター）

実行委員： 村井裕樹 （日本福祉大学）

藤田ひとみ （日本福祉大学）

塚田敦史 （名城大学）

西ノ平志子 （三重大学）

城野友哉 （金沢福祉用具情報プラザ）

本田優介 （金沢福祉用具情報プラザ）

鈴木光久 （名古屋市総合リハビリテーションセンター）

日比野新 （名古屋市総合リハビリテーションセンター）

花實隆歩 （名古屋市総合リハビリテーションセンター）

田中芳則 （なごや福祉用具プラザ）

川崎善信 （株式会社エヌ・エフ・ユー）

大河内昭宏 （S. R. C. O.）

志知篤 （日本福祉大学 健康科学研究所）

カンファレンス担当理事：

鈴木太 （愛媛頸髄損傷者連絡会）

渡辺崇史 （日本福祉大学）

第38回リハ工学カンファレンス in 東海

プログラム集

2024 年 8 月 23 日 発行

発 行 : 一般社団法人日本リハビリテーション工学協会
編 集 : 第38回リハ工学カンファレンス in 東海実行委員会
大会事務局 : 〒466-0015 名古屋市昭和区御器所通3丁目12-1
御器所ステーションビル3階
なごや福祉用具プラザ内